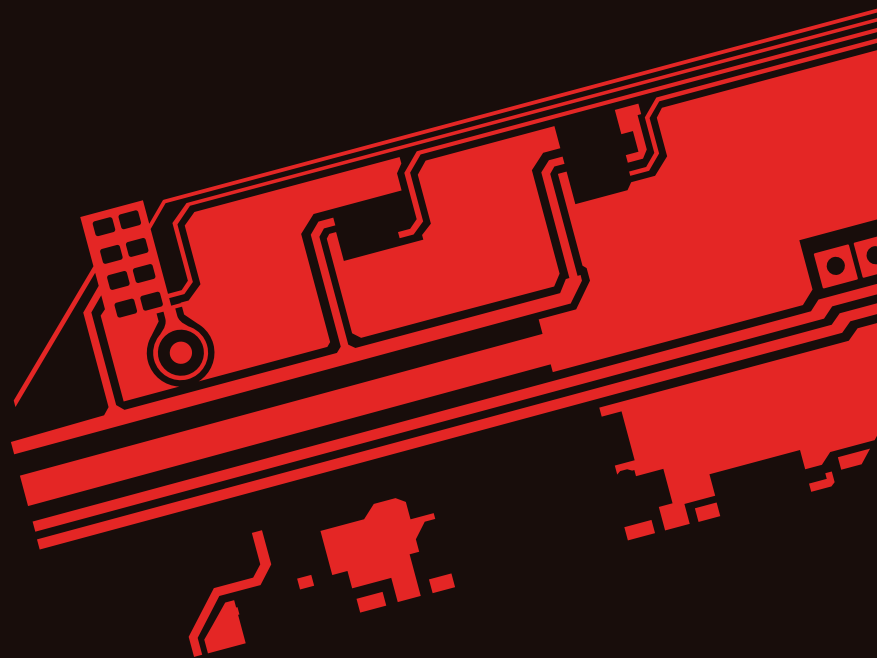


**KO PROPO®**

*Ultra High Speed Response* **EX-1** **ULR**

取扱説明書





# はじめに

このたびは EX-1UR（以降、本機）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
お使いいただく前にこの取扱説明書をお読みになり、内容をよくご理解ください。お読みになった後は、本書は紛失しないよう大切に保存してください。  
最新情報は弊社ホームページ（<http://www.kopropo.co.jp>）をご覧ください。

## 本書の読み方

- 「使い方」では、送信機の基本的なご使用方法を説明しています。  
さらに各機能を使いこなすために、ファンクションメニューの項目をご覧ください。
- 特に本機で追加または新しくなった機能については、以下の項目をご覧ください。  
ステアリングモニター..... (15 ページ)  
スロットルモニター..... (23 ページ)  
レスポンスモード..... (9 ページ)  
    (アドバンスドハイスピードレスポンス  
    /ウルトラハイスピードレスポンス)  
スロットルアイドルアップ..... (32 ページ)  
3ch/4ch設定..... (38 ページ)  
ステアリングクイックリアクション..... (20 ページ)  
スロットルクイックリアクション..... (28 ページ)

## 用途、輸出、改造などに関するご注意

1. 模型用にのみ、ご使用いただけます。  
本機の用途は日本国内法により、模型用に限定されています。  
また、使用できる模型は、地上用または水上用のみです。
2. (ア) 本機を輸出する場合、相手国の電波法で認可されていない周波数では使用できません。  
また、相手国の国内法規に沿った許認可が必要な場合があります。  
(イ) 模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令に基づく規制の対象になる場合があります。  
この場合、輸出許可申請書の提出などの法規に沿った手続きが必要になる場合があります。
3. 弊社以外で本機の分解、調整、部品交換、改造などが行われた場合、弊社は修理を含む一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

## その他のご注意

- 本書の内容のすべて、または一部についての無断転載、引用を禁じます。
- 本書の記載内容および製品の仕様は、予告無く変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一不明な点や明らかな誤り、記載漏れがございましたら、恐れ入りますが弊社までご連絡ください。（連絡先は巻末をご覧ください。）
- ラジオコントロール模型の性格上、お客様が本機をご使用になった結果につきましては弊社では責任を負いかねる場合があります。あらかじめご了承ください。

# 目次




はじめに.....	i
目次.....	ii
安全にご使用いただくために.....	iv
<b>第1章 使い方</b> .....	1
各部の名称.....	1
キー操作とファンクションメニュー一覧.....	2
通常画面.....	2
ファンクションメニュー画面.....	2
<b>使うための準備</b> .....	5
電池のセット.....	5
バッテリーパック（別売）のセットと充電.....	5
周波数帯と周波数（バンド）の変更（27MHz 帯←→ 40MHz 帯）.....	6
本機の設定.....	7
カラーパッドの交換.....	8
<b>本機の特長</b> .....	9
動作モード（レスポンスモード）の切り替え.....	9
モードの種類.....	9
レスポンスとクイックリアクション機能設定.....	10
モードの切り替え.....	10
レスポンスモード対応表.....	11
D.S.C（ダイレクトサーボコントロール）.....	12
トリムとサブトリムの設定.....	13
トリム調整の目的.....	13
トリム（センタートリム）.....	13
サブトリム.....	13
セッティングのしかた.....	13
ステアリング切れ角の調整.....	14
<b>第2章 ファンクションメニュー設定</b> .....	15
<b>ステアリング関連の設定</b> .....	15
ステア量の表示（S:MONIT ステアリングモニター）.....	15
ニュートラル位置の調整（S:TRM ステアリングトリム）.....	15
動作量の調整（S:TRAVEL ステアリングトラベル）.....	16
左右の舵角の個別調整（S:BALANC ステアリングバランス）.....	16
動作角の端とニュートラル位置の調整（S:SUBTRM ステアリングサブトリム）.....	17
トリム1ステップの動作量の調整（S:TRMRAT ステアリングトリムレート）.....	18
動作方向の切り替え（S:REVERS ステアリングリバース）.....	18
切り始めの反応のクイック化（S:PUNCH ステアリングパンチ）.....	19
舵角とサーボ動作角の調整（S:CURVE ステアリングカーブ）.....	19
ステアリングレスポンスの向上（S:QuickR ステアリングクイックリアクション）.....	20
舵角に応じたサーボスピードの設定（S:SPEED ステアリングスピード）.....	20
<b>スロットル関連の設定</b> .....	23
スロットルトリガー操作量の表示（T:MONIT スロットルモニター）.....	23
ニュートラル位置の調整（T:TRM スロットルトリム）.....	23
前進側の動作量の設定（T:HiPOT スロットルハイポイント）.....	24

ブレーキ側の動作量の設定 (T:BRAKE ブレーキ).....	24
動作角の端とニュートラル位置の調整 (T:SUBTRM スロットルサブトリム).....	25
トリム 1 ステップの動作量の調整 (T:TRMRAT スロットルトリムレート).....	25
動作方向の切り替え (T:REVERS スロットルリバース).....	26
初期反応のクイック化 (T:PUNCH スロットルパンチ).....	26
スロットルトリガー操作量とサーボ動作角の調整 (T:CURVE スロットルカーブ).....	27
スロットルレスポンスの向上 (T:QuickR スロットルクイックリアクション).....	28
スロットルの反応速度の調整 (T:SPEED スロットルスピード).....	29
任意の位置にスロットルサーボを動かす (T:IDLEUP スロットルアイドルアップ).....	32
ABS の設定 (T:ABS ABS).....	33
ポンピング幅 (ABS:WID) とポンピング開始位置 (ABS:POS).....	35
スロットルのあおり (アクセレーション) (T:ACCEL スロットルアクセレーション).....	35
スイング幅 (ACC:WID) とスロットルトリガーの位置 (ACC:POSL、ACC:POSH) ...	36
スタート時のスロットル量を一定にする (T:AUTO.S オートスタート).....	37
<b>3ch / 4ch の設定</b> .....	38
動作量の表示 (3chMONIT 3ch モニター) (4chMONIT 4ch モニター).....	38
各位置での出力量の設定 (3chSETUP 3ch の設定) (4chSETUP 4ch の設定).....	38
<b>その他の設定</b> .....	40
出力チャンネル数の設定 (#CHSELCT チャンネルセレクト).....	40
出力フレームの設定 (#RESPONS レスポンス).....	40
ボタンへの機能の割り当て (#SETUP セットアップ).....	41
ストップウォッチ (#S.WATCH ストップウォッチ).....	42
ラップタイムの表示.....	43
ダウンタイマー (#DOWN.T ダウンタイマー).....	44
消耗したボリュームの更新 (#ADJVOL アジャストボリューム).....	45
液晶ディスプレイのコントラスト調整 (#CONTRST コントラスト).....	46
液晶ディスプレイのバックライトの点灯方法 (#B.LIGHT バックライト).....	47
ブザー音の音程の調整 (#BUZZER ブザー).....	47
キー長押し時の連打速度 (#KeyREPT キーリピート).....	48
設定内容のリセット (#RESET リセット).....	48
モデルメモリのコピー (#M.COPY モデルコピー).....	49
モデルメモリに名前を付ける (#M.NAME モデルネーム).....	49
モデルメモリの切り替え (#M.SELCT モデルセレクト).....	50
<b>第 3 章 受信機の搭載</b> .....	51
<b>受信機各部の名称</b> .....	51
受信機の接続例.....	51
周波数と周波数帯.....	52
<b>搭載時の注意</b> .....	53
<b>第 4 章 付録</b> .....	55
仕様.....	55
用語説明.....	56
索引.....	59
修理を依頼されるときは.....	63



# 安全にご使用いただくために

ラジコン模型はその性格上、取り扱いを誤ると、ご自身はもちろん周囲に危険な結果を招くおそれがあります。このような事態を避け、安全にご使用いただくために、ここで示した注意事項を必ずお守りください。

## 表示、記号の説明










 <b>危険！</b>	この表示は、「死亡または、重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容を示します。
 <b>警告！</b>	この表示は、「死亡または、重傷を負う可能性が想定され、高い頻度で物損事故が発生する」内容です。
 <b>注意！</b>	この内容は、「障害を負う可能性または、物損事故のみが発生することが想定される」内容です。

## 絵表示の意味

 <b>禁止事項</b>	この記号は、やってはいけない内容を表しています。
 <b>強制事項</b>	この記号は、必ず行わなければならない内容を表しています。

## 使用前、メカ組み込み時の注意

### **警告！**

-  交換式のクリスタルの場合は、必ず弊社純正クリスタルセット（送信機、受信機）を使用する。指定以外のクリスタルを使用すると、周波数のズレや出力の減少を招き、暴走することがあります。
-  動作時の振動によって、模型の車体や船体に他の金属製またはカーボン製などのパーツが触れないようにする。  
ノイズが発生して受信機の受信性能が低下し、誤動作や暴走することがあります。
-  本機を地上用または水上用ラジコン模型以外の用途に使用しない。
-  送信機、受信機の電源にニッカド電池を使用する場合は、純正品を使用する。また、使用前に充電する。  
走行中に電池がなくなると、暴走することがあります。
-  受信機、サーボ、スイッチなどのコネクタは、奥までしっかり挿す。  
走行中の振動でコネクタが抜けると、暴走することがあります。
-  受信機の固定は厚手の両面テープを使用するなどして、振動が直接伝わらないようにする。  
振動により、内部パーツが破損することがあります。
-  受信機アンテナは切ったり、束ねたりしない。  
受信感度が下がり、暴走することがあります。
-  サーボは搭載後に必ず動作を確認し、無理な力が加わったりしていないか注意する。  
サーボに無理な力が加わると、サーボの故障や電源の電圧降下を招き、暴走することがあります。
-  サーボの取り付けにはゴムグロメットを使用する。また、サーボが直接シャーシに触れないようにする。  
サーボに振動が直接伝わると、故障の原因となります。またその結果、暴走することがあります。

## ⚠ 注意！

- 送・受信機ともに、電池の極性を間違えない。機器が破損します。

- 送・受信機、サーボ、ESC など組み合わせる周辺機器は、必ず弊社純正品を使用する。弊社純正品以外との組み合わせにより発生した損害などにつきましては、弊社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

## 走行（航行）時の注意

### ⚠ 警告！

- 送信機のスイッチを ON にする前に、必ずバンド（周波数）が空いていることを確認する。同じ周波数を使用している人の模型が暴走して危険です。
- カミナリが鳴っているときは走行させない。アンテナに落雷する危険があります。
- 雨天や水たまりのある場所では走行させない。機器に水が入り、暴走することがあります。
- 次のような場所では走行させない。
  - ・他のラジコンサーキットの近く（3km 程度以内）
  - ・人の近く、道路
  - ・実艇、手漕ぎボートのいる水面混信やトラブルによって暴走すると、危険です。
- 疲労時、飲酒中や飲酒後、服薬により集中力に支障をきたすような時は走行させない。判断ミスにより思わぬ事故を起こします。

- 送信機のアンテナがゆるんでいないか確認し、全段伸ばす。電波が正常に発射されないと、暴走することがあります。
- エンジンの燃料や排気などが、プラスチック部分に直接にかからないようにする。燃料や排気によってプラスチックが侵され、破損します。
- 現在のモデルメモリーが実際に走行させる模型に合っているか、必ず確認する。暴走の原因になります。
- 送信機の機能設定を変更するときは、必ずエンジンを停止した（モーター配線を外した）状態で行う。

### ⚠ 注意！

- 電源スイッチを ON にするときは「送信機→受信機」の順で、OFF にするときは「受信機→送信機」の順で行う。逆にすると、受信機がノイズを受けて暴走することがあります。
- バンドプレートを必ず取り付ける。他の人に自分のバンドを分かりやすく表示します。

- 走行後はエンジン、モーター、ESC など、発熱している箇所には触らない。ヤケドのおそれがあります。
- 送信機のアンテナを体に接触させない。送信機は高周波電力をアンテナから発射していますので、体に触れた場合にまれに刺激を受けることがあります。

## 走行（航行）後の注意

### 警告！

- ⚠ 電動カーの場合、走行後に必ず走行用バッテリーを外す。  
誤ってスイッチが入った場合に、火災の原因になったり、暴走することがあります。
- ⚠ 送信機、電池、模型などは、幼児の手の届かない場所に保管する。  
化学物質による被害を受けたり、ケガの危険性があります。

### 注意！

- ⚠ 長期間使用しないときは、送信機からバッテリーを外す。  
バッテリーを入れたまま放置すると、液漏れによって送信機が破損することがあります。
- ⚠ 送受信機は次の様な場所に保管しない。
  - ・ 極端に暑い所や寒い所（40℃以上、-10℃以下）
  - ・ 直射日光の当たる所
  - ・ 湿気の多い所
  - ・ 振動の多い所
  - ・ ホコリの多い所ケースの変形や故障の原因になります。

## 送信機用バッテリー（別売オプション）の取り扱い / 充電時の注意

### 危険！

- ⊘ 絶対に電池のコネクタ端子をショートさせない。  
発火や破裂の恐れがあります。
- ⊘ 電池を火中に投げこまない。  
破裂の恐れがあり、大変危険です。
- ⚠ 充電には必ず弊社製充電器を使用する。また、充電電流（1A 以下）を守る。  
充電電流の設定を誤ると、電池の破裂、発熱、液漏れの恐れがあります。  
他社製の充電器では、オートカットしない恐れがあります。
- ⊘ 電池が液漏れした場合は、絶対に液を目に入れない。  
失明の恐れがあります。万一、目に入ってしまったときは、すぐに大量の流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- ⚠ 電池に強い衝撃を与えない。  
壊れて液漏れしたり、ショートして異常発熱することがあります。
- ⊘ 電池を分解したり改造しない。  
液漏れの恐れがあります。
- ⊘ 電池を水に濡らさない。濡れた電池を充電しない。  
発熱、破損の原因になります。
- ⊘ 乾電池を充電しない。  
乾電池などの一次電池は充電できません。充電すると、破裂や発火の恐れがあります。
- ⊘ 充電器を扱うときや充電器を AC コンセントに差し込むときは、濡れた手で触らない。  
感電の恐れがあります。

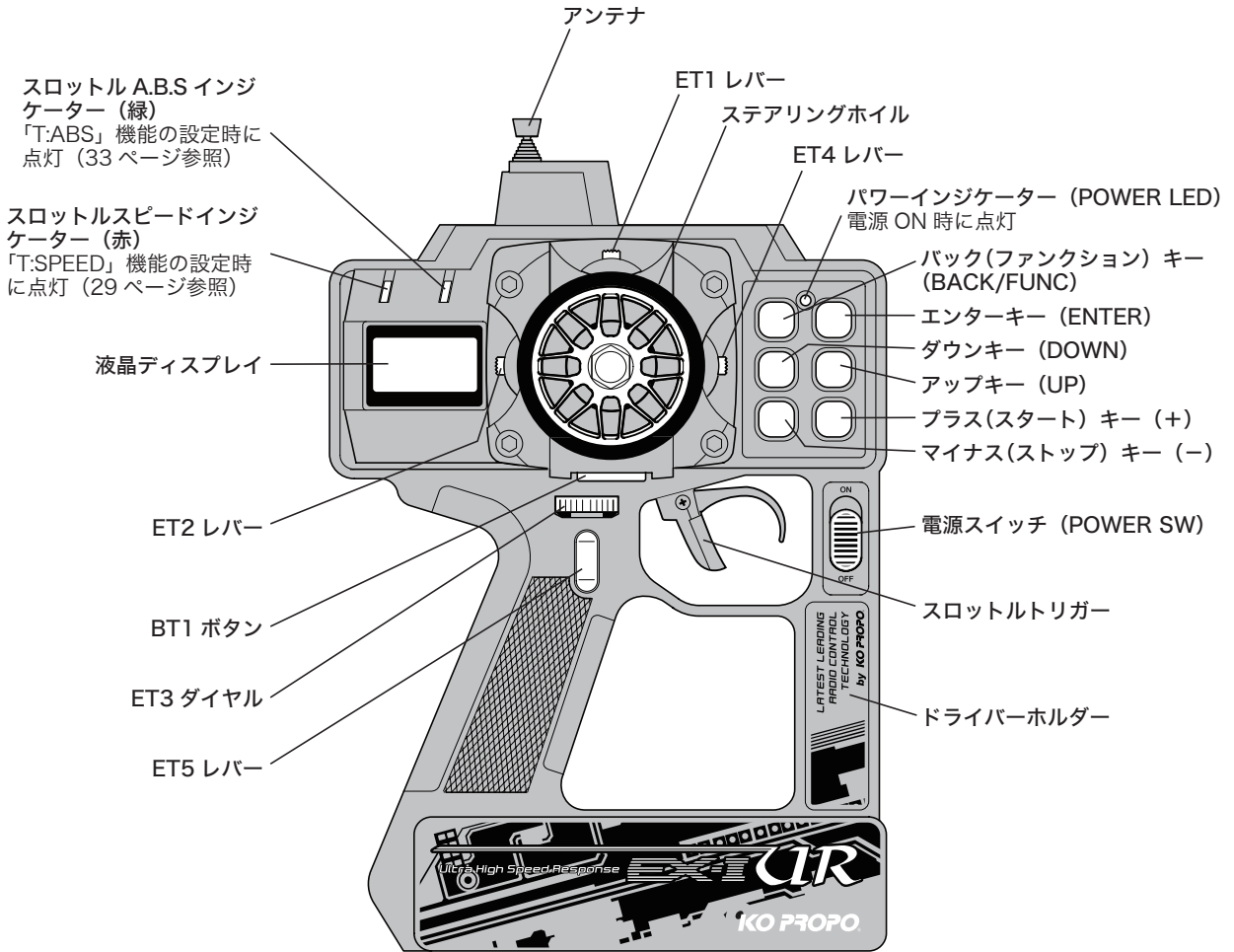
### 電池のリサイクルにご協力ください。

ニッケル水素電池、ニッケル水素電池はリサイクル電池です。安易な投棄、破棄は環境汚染の恐れがありますので、おやめください。



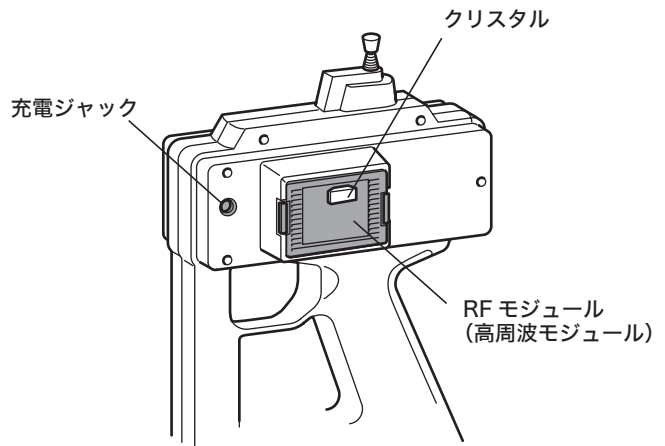
# 第1章 使い方

## 各部の名称



### <工場出荷時設定>

ET1	S:TRM (ステアリングトリム)
ET2	T:TRM (スロットルトリム)
ET3	S:TRAVEL (ステアリングトラベル)
ET4	T:BRAKE (スロットルブレーキ)
ET5	未使用
BT1	T:AUTO.S (スロットルオートスタート)

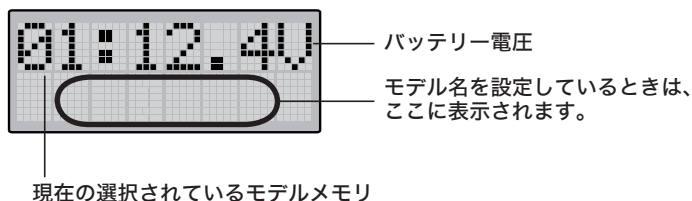


## キー操作とファンクションメニュー一覧

アップキーやダウンキーを押すと、液晶ディスプレイに本機の設定メニュー（ファンクションメニュー）が表示されます。各メニューの設定内容や設定方法は、それぞれの参照先ページをご覧ください。

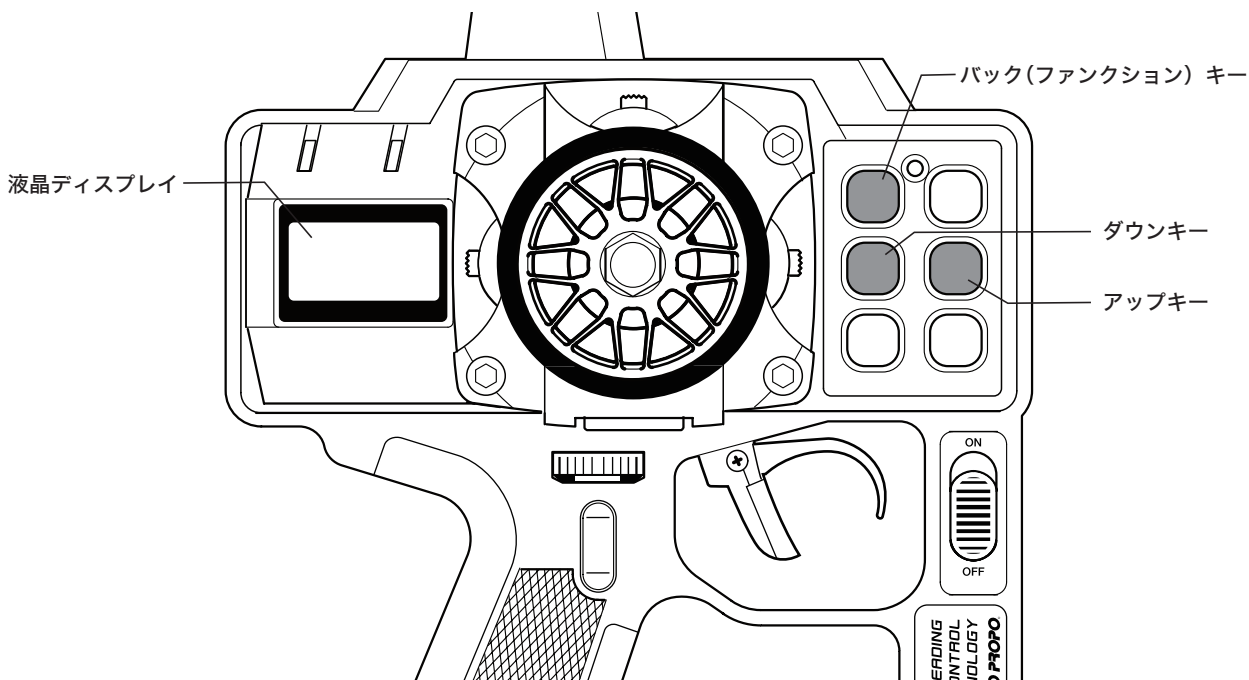
### 通常画面

電源を ON にすると、液晶ディスプレイに次の画面が表示されます。



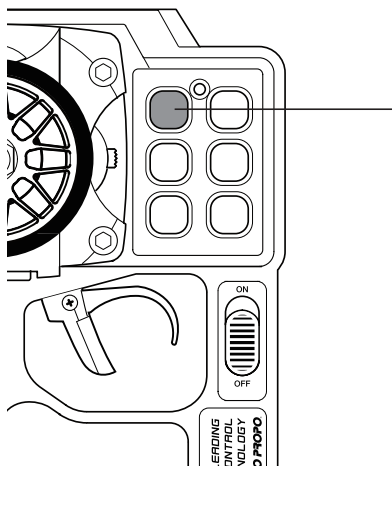
### ファンクションメニュー画面

アップキー、ダウンキーを押すことで、液晶ディスプレイに表示される画面が切り替わります。それぞれの画面で本機の機能を設定します。（アップキーを押すと表の下から順に、ダウンキーを押すと上から順に切り替わります。）



設定ジャンル	画面表示名	ファンクションメニュー名	参照ページ
ステアリング関連	S:MONIT	ステアリングモニター	15 ページ
	S:TRM	ステアリングトリム	15 ページ
	S:TRAVEL	ステアリングトラベル	16 ページ
	S:BALANC	ステアリングバランス	16 ページ
	S:SUBTRM	ステアリングサブトリム	17 ページ
	S:TRMRAT	ステアリングトリムレート	18 ページ
	S:REVERS	ステアリングリバース	18 ページ
	S:PUNCH	ステアリングパンチ	19 ページ
	S:CURVE	ステアリングカーブ	19 ページ
	S:QuickR	ステアリングクイックリアクション	20 ページ
	S:SPEED	ステアリングスピード	20 ページ
スロットル関連	T:MONIT	スロットルモニター	23 ページ
	T:TRM	スロットルトリム	23 ページ
	T:HiPOT	ハイポイント	24 ページ
	T:BRAKE	ブレーキ	24 ページ
	T:SUBTRM	スロットルサブトリム	25 ページ
	T:TRMRAT	スロットルトリムレート	25 ページ
	T:REVERS	スロットルリバース	26 ページ
	T:PUNCH	スロットルパンチ	26 ページ
	T:CURVE	スロットルカーブ	27 ページ
	T:QuickR	スロットルクイックリアクション	28 ページ
	T:SPEED	スロットルスピード	29 ページ
	T:IDLEUP	スロットルアイドルアップ	32 ページ
	T:ABS	ABS	33 ページ
	T:ACCEL	スロットルアクセレーション	35 ページ
T:AUTO.S	オートスタート	37 ページ	
3ch 設定	3chMONIT	3ch モニター	38 ページ
	3chSETUP	3ch の設定	38 ページ
4ch 設定	4chMONIT	4ch モニター	38 ページ
	4chSETUP	4ch の設定	38 ページ
その他の機能	#CHSELCT	チャンネルセレクト	40 ページ
	#RESPONS	レスポンス	40 ページ
	#SETUP	セットアップ	41 ページ
	#S.WATCH	ストップウォッチ	42 ページ
	#DOWN.T	ダウンタイマー	44 ページ
	#ADJVOL	アジャストボリューム	45 ページ
	#CONTRST	コントラスト	46 ページ
	#B.LIGHT	バックライト	47 ページ
	#BUZZER	ブザー	47 ページ
	#KeyREPT	キーリピート	48 ページ
	#RESET	リセット	48 ページ
	#M.COPY	モデルコピー	49 ページ
	#M.NAME	モデルネーム	49 ページ
#M.SELCT	モデルセレクト	50 ページ	

▶メモ バック（ファンクション）キーを押すことで、各設定ジャンルの最初の画面にジャンプできます。



ジャンル	ファンクションメニュー名 (画面表示)	ファンクションメニュー名	参照ページ
ステアリング関連	S:MONIT	ステアリングモニター	15 ページ
スロットル関連	T:MONIT	スロットルモニター	23 ページ
3ch 関連 (*)	3chMONIT	3ch モニター	38 ページ
4ch 関連 (*)	4chMONIT	4ch モニター	38 ページ
その他の機能	#CHSELECT	チャンネルセレクト	40 ページ

\* 「#CHSELECT」(チャンネルセレクト) で「ch3」または「ch4」を選択している場合のみ (40 ページ参照)

▶メモ 通常画面への戻り方が分からなくなったときはバック（ファンクション）キーを数回押せば、どの画面からでも通常画面に戻れます。

## 使うための準備

本機に電池をセットします。また、必要に応じて高周波モジュールやクリスタルを交換します。  
その後、必要に応じて本機の設定を変更します。

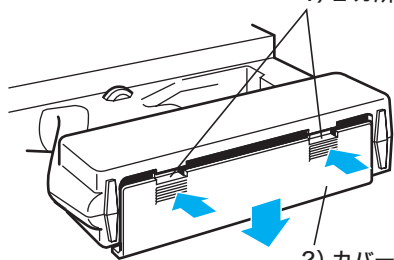
### 電池のセット

#### 警告！

- ⊘ 単三形ニッカド電池と単三形ニッケル水素電池は使用しない。  
充電すると、ガスが発生して本機内部が腐食します。

#### 1 電池カバーを外します。

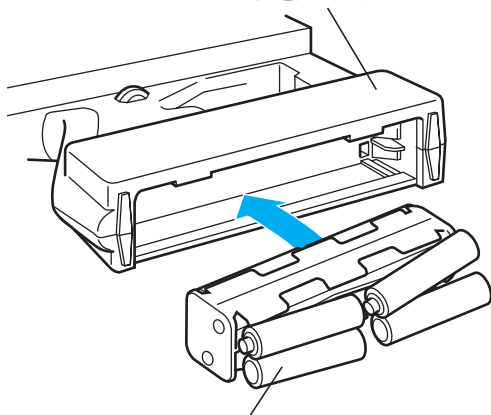
1) 2カ所を押します。



2) カバーをスライドさせて取り外します。

#### 2 電池ボックスに単三形乾電池（8本）をセットします。

2) 電池ボックスと本体の接点の向きに注意して、電池ボックスをセットします。



1) 電池の+・-（プラス・マイナス）に注意して電池ボックスにセットします。

#### 3 電池カバーを元どおり取り付けます。

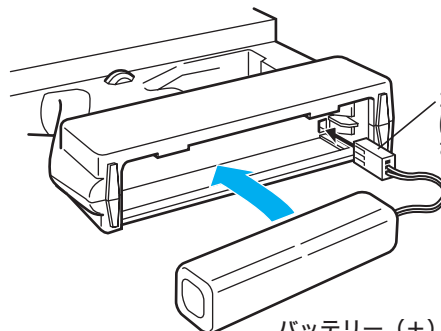
### バッテリーパック（別売）のセットと充電

#### 警告！

- ⊘ 本機に乾電池をセットしているときは、絶対に充電しない。  
乾電池が液漏れしたり破裂したりして、本機が破損します。

- ⚠ 必ず弊社製充電器を使用する。  
バッテリーが液漏れしたり破裂したりして、本機が破損します。

#### 1 電池ボックスと同様に、バッテリーパックを本体にセットします。



コネクタの向きに注意してください。

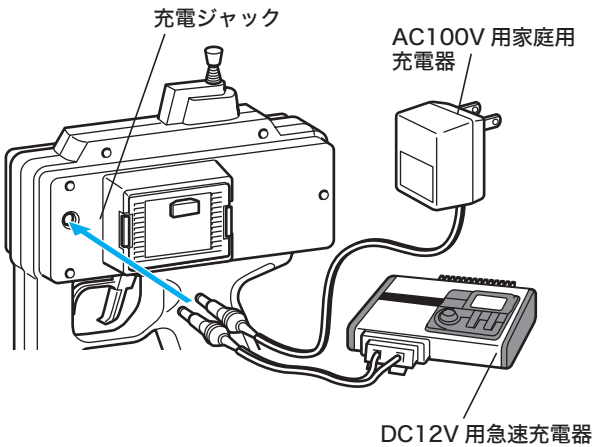
バッテリー（+）：背面側のピン  
バッテリー（-）：真ん中のピン

#### 2 バッテリーパックが本体内で動かないようにするために、電池カバーの裏面に付属のスポンジを貼ります。

#### 3 バッテリーパックを奥まで入れたら、電池カバーを元どおり取り付けます。

**注意** コードを挟まないように注意してください。

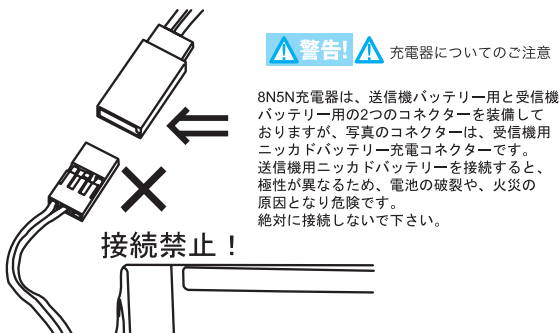
4 AC100V 用充電器または DC12V 用急速充電器を、本体裏面の充電ジャックに接続して充電します。



**メモ** AC100V 用充電器を使用する場合は 14～16 時間、充電してください。(放電状態からの目安です。)

**メモ** 充電ジャックからはバッテリーパックの放電はできません。放電するときは本体から取り出してください。

**メモ** 受信機用コネクタにバッテリーパックのコネクタを絶対接続しないでください。



周波数帯と周波数 (バンド) の変更 (27MHz 帯 ↔ 40MHz 帯)

周波数帯を変更するには高周波モジュールを交換します。

周波数 (バンド) を変更するにはクリスタルを交換します。

**警告!**

**!** クリスタルは必ず弊社製純正クリスタルセット (送信機、受信機) を使用する。弊社製品以外を使用すると、周波数ズレによって暴走することがあります。

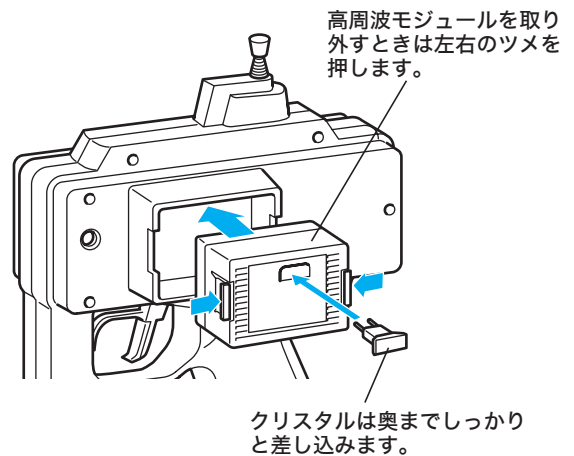
**注意!**

**!** EX-1UR 用高周波モジュール以外は使用しない。

1 本機の電源を OFF にします。

**!** 注意! 本機の電源は必ず OFF にしてください。

2 必要に応じて高周波モジュールとクリスタルを取り外して交換します。



40MHz 帯の送受信機は、(財) 日本ラジコン電波安全協会の推奨規格適合証明試験に合格した製品です。

高周波モジュールに貼られている適合証明シールははがさないでください。

27MHz 帯の送信機は日本ラジコン模型工業会の推奨企規格の適合品で、検定に合格した製品です。高周波モジュールに貼られている検定シールははがさないでください。

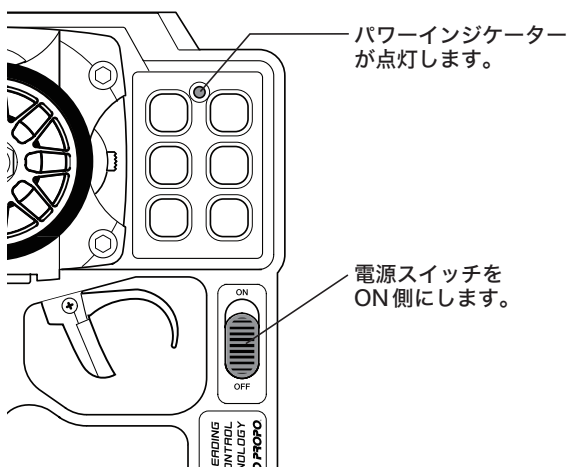
## 本機の設定

必要に応じて本機の設定を変更します。

ここではよく使う設定項目をリストアップしています。詳しい設定内容は、参照先のページをご覧ください。

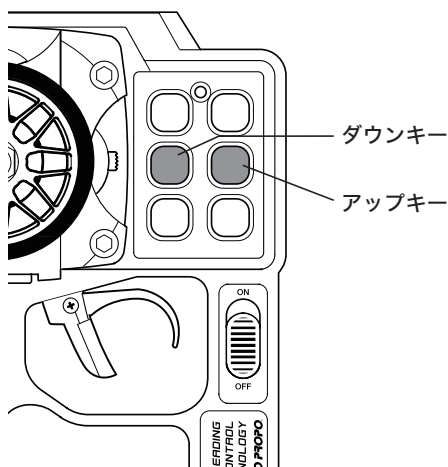
**メモ** 本機だけを操作するときは、高周波モジュールかクリスタルを外しておくことで電波が発射されず、電力消費が抑えられて電池が長持ちします。

### 1 本機の電源を ON にします。



### 2 アップキー、ダウンキーを押してファンクションメニューを切り替えます。

(2 ページ「ファンクションメニュー画面」参照)



### 3 やりたいことに合わせて各項目のページを参照してください。

#### ●表示とサウンドの設定を変えたい

- 液晶ディスプレイの表示の濃さを濃くしたい／薄くしたい。  
→ 「#CONTRST」(CONTRAST)で調整します。  
..... 46 ページ
- 液晶ディスプレイのバックライトを点灯／消灯したい。  
→ 「#B.LIGHT」で変更します。出荷時は AUTO (自動設定) になっています。..... 47 ページ
- キーやボタンの操作時に鳴るブザーの音程を変えたい。  
→ 「#BUZZAR」で調整します。..... 47 ページ

#### ●動作に関する設定を変えたい

- 動作モード (レスポンスモード) を変えたい。  
→ 「#RESPONS」でモードを選択します。また、「#CHSELCT」でチャンネル数を設定します。  
..... 40 ページ
- ETレバーやBTボタンに割り当てる機能を変えたい。  
→ 「#SETUP」で設定します。..... 41 ページ

#### ●別売のオプション機能を使いたい

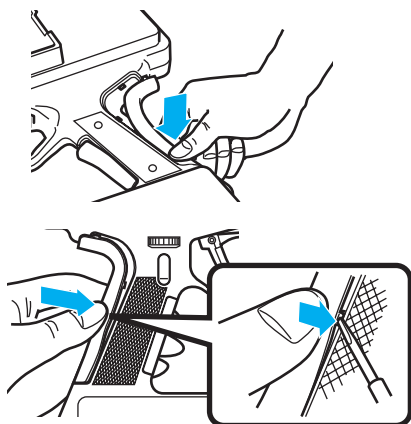
- 本機から電波を発射せずにセッティングしたい。  
→ 本機に D.S.C (ダイレクトサーボコントロール) をセットして受信機と接続することで、電波を発射しなくても操作できるようになります。..... 12 ページ

## カラーパッドの交換

グリップ前後のカラーパッドを取り外して別売品に交換できます。

パッドの縁に爪を差し込んで、はがすようにして外します。

取り付けるときは、下の方の爪から順に本体側のスリットに差し込みます。爪が上手く入らないときは、マイナスドライバーなどで爪をスリットに押し込んでください。





# 本機の特長

## 動作モード（レスポンスモード）の切り替え

本機では、信号のレスポンス速度（レスポンスモード）を3段階に切り替えることができます。高速なモードを選択することで、ステアリングやスロットルを操作したときの反応を向上できます。

### モードの種類

レスポンスモードは、ファンクションメニューの「#RESPONS」で選択できます。

#### ●ノーマルレスポンス（Normal Response）

従来の機器と互換性があるモードです。対応受信機や対応サーボでなくても使用可能です。

**メモ** ここで言う受信機とは、送信機側 RF モジュールの変調方式（FM/AM）に対応した物を指します。

**メモ** アドバンスドハイスピードまたはスーパーハイスピード対応の受信機とサーボも、ノーマルモードで使用可能です。

#### ●スーパーハイスピードレスポンス（Super High Speed Response）



ファンクションメニューの「#CHSELCT」で2chまたは3chを選択している場合に使用可能です。ノーマルレスポンスよりレスポンスが向上します。

**メモ** このモードで使用するには、スーパーハイスピードまたはアドバンスドハイスピード対応の受信機とサーボが必要です。

#### ●アドバンスドハイスピードレスポンス（Advanced High Speed Response）



ファンクションメニューの「#CHSELCT」で2chを選択している場合に使用可能です。ノーマル、スーパーハイスピードの各モードを超えた、最速のレスポンスが得られます。

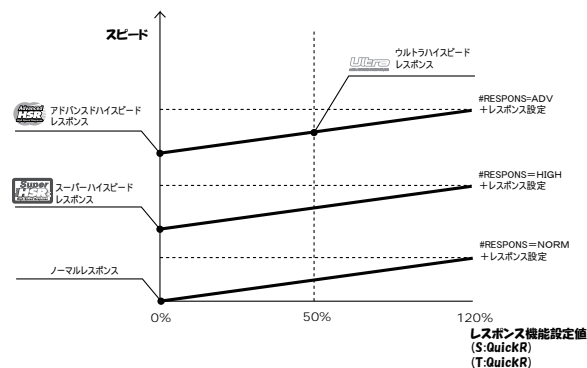
**メモ** このモードで使用するには、アドバンスドハイスピードレスポンス（Super High Speed Response）対応の受信機とサーボが必要です。

フレーム チャンネル	ノーマルレスポンス	スーパーハイスピード レスポンス	アドバンスドハイスピード レスポンス
2ch	●	●	●
3ch	●	●	×（※）
4ch	●	×	×

※ アドバンスドハイスピードレスポンスの場合は、受信機の3chは使用できません。使用すると、サーボの動作範囲外の信号が出力され、破損する場合があります。

## レスポンスとクイックリアクション機能設定

「S:QuickR」（ステアリングクイックリアクション）と「T:QuickR」（スロットルクイックリアクション）を設定することで、さらにレスポンスを向上できます。（20 ページ「ステアリングレスポンスの向上」、28 ページ「スロットルレスポンスの向上」参照）



**メモ** ウルトラハイスピードレスポンス対応受信機は、KR-302FSのみです。

## モードの切り替え

**注意** 作業の前に、使用する受信機とサーボが目的のレスポンスモードに対応しているか確認してください。（11 ページ「レスポンスモード対応表」参照）

- 1 本体のファンクションメニューの「#RESPONS」で、送信機のレスポンスモードを選択します。（40 ページ「出力フレームの設定」参照）
- 2 同じくファンクションメニューの「#CHSELECT」で、手順 1 で設定したレスポンスモードで使用可能なチャンネルを設定します。（40 ページ「出力チャンネル数の設定」参照）
- 3 さらに必要に応じて、「S:QuickR」と「T:QuickR」を設定します。（20 ページ「ステアリングレスポンスの向上」、28 ページ「スロットルレスポンスの向上」参照）

## レスポンスモード対応表

○：対応 ×：非対応

			Normal	Super High Speed	Advanced High Speed
受信機	KR-297FZ	(生産終了)	○	×	×
	KR-301F/FS	(生産終了)	○	○	×
	KR-302F/FS/FSC		○	○	○
アナログサーボ	PS-401		○	×	×
	PS-712FET	(生産終了)	○	×	×
	PS-713FET	(生産終了)	○	×	×
	PS-2173FET	(生産終了)	○	○	×
	PS-2174FET	(生産終了)	○	○	×
	PS-2113FET	(生産終了)	○	○	×
	PS-2133FET	(生産終了)	○	○	×
デジタルサーボ	PDS-947ICS	(生産終了)	○	○	○
	PDS-949ICS		○	○	○
	PDS-763ICS		○	○	○
	PDS-764ICS		○	○	○
	PDS-2123FET	(生産終了)	○	○	○
	PDS-2143FET	(生産終了)	○	○	○
	PDS-2144FET	(生産終了)	○	○	○
	PDS-2343FET		○	○	○
	PDS-2344FET		○	○	○
	PDS-2363ICS		○	○	○
	PDS-2364ICS		○	○	○
	PDS-2367ICS		○	○	○
	PDS-2368ICS		○	○	○
	PDS-2386ICS		○	○	○
	PDS-2413ICS		○	○	○
	PDS-3014ICS	(生産終了)	○	○	○
	PDS-8044ICS		○	○	○
	ESC	EZ-1000	(生産終了)	○	○
KSC-1000FR		(生産終了)	○	○	○
KSC-1100FR		(生産終了)	○	○	○
KSC-1200F		(生産終了)	○	○	○
VFS-2000/J		(生産終了)	○	○	○
VFS-1PRO/J			○	○	○
VFS-2			○	○	○
VFS-FR			○	○	○
VFS-1PRO Competition		(生産終了)	○	○	○
VFS-1PRO C2			○	○	○
その他	フェイルセーフアダプター (FSA-1)	(生産終了)	○	○	×

## D.S.C (ダイレクトサーボコントロール)

別売の D.S.C を使って本機と受信機を接続することで、コース (ピット) などで電波を発射せずに設定を確認できます。

**メモ** 別売の D.S.C (No.1581 DSC (EX-1 用)) が 必要です。

**メモ** 本機付属の受信機でなくても、次の D.S.C 対応受信機で使用可能です。

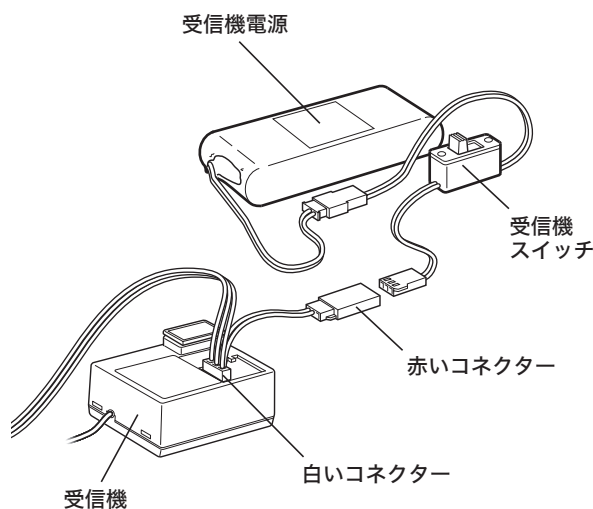
KR-297FZ (生産終了品)

KR-301F (生産終了品)

KR-302F/FS/FSC

ただし付属品以外の受信機を使用するときは、レスポンスモードに注意してください。(9 ページ「動作モード (レスポンスモード) の切り替え」)

4 D.S.C のケーブルの白いコネクターを、受信機のバッテリーチャンネルに接続します。



**注意** 暴走を避けるため、セッティング中はモーターの配線を外してください。モーターを接続したまま設定を確認するときは、必ずタイヤを地面から浮かせてください。モーターが回って暴走することがあります。

5 本機の電源を ON にしてから、受信機の電源を ON にします。

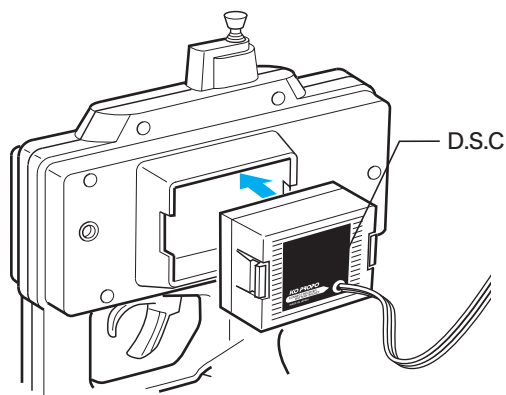
6 セッティングが終わったら、受信機の電源を OFF にしてから、本機の電源を OFF にします。

7 D.S.C を本機と受信機から取り外します。

**注意** 本機から D.S.C を外す前に、必ず受信機の電源を OFF にしてください。

1 本機の電源を OFF にします。

2 高周波モジュールを取り外して、D.S.C (別売品) を取り付けます。



3 受信機からクリスタルを取り外します。

**注意** 受信機のクリスタルは必ず取り外してください。セッティング中に誤動作するおそれがあります。

## トリムとサブトリムの設定

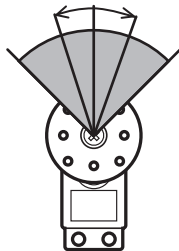
### トリム調整の目的

「トリム」とは、サーボのニュートラル位置の調整機能です。ステアリングサーボを積み込んだ後に実際に走らせてみて、まっすぐ走らない場合にステアリングのトリムを調整する必要があります。また、エンジンカーのスロットルでも、キャブレターのニュートラル位置はサーボの搭載後に修正する必要があります。

ニュートラル位置の調整はサーボ搭載直後に行うだけでなく、タイヤの摩耗やシャシーのねじれなど走行中の変化に対応するためにも必要になります。

本機には、動作角の端はそのままニュートラル位置だけを調整する「トリム」（センタートリム）と、動作角の端とニュートラル位置を一緒に動かす「サブトリム」の2種類のファンクションメニューがあります。

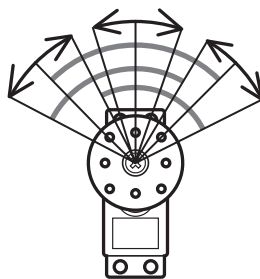
### トリム（センタートリム）



動作角の端は動きません。  
ニュートラルの位置だけが動きます。

- 走行中にニュートラル位置を調整したい場合に、設定を変更します。
- ステアリングのトリムはファンクションメニュー「S:TRM」で設定できます。（15ページ参照）
- スロットルのトリムはファンクションメニュー「T:TRM」で設定できます。（23ページ参照）
- 大きく動かすと、動作角の左右のバランスが崩れてしまいます。その場合はサブトリムを調整し直して、トリムが0になるようにしてください。
- 初期状態では、「S:TRM」はET1レバーに、「T:TRM」はET2レバーに割り当てられています。

### サブトリム



動作角の端とニュートラル位置が同時に動きます。

- サーボの搭載時やテスト走行時に調整します。
- ステアリングのサブトリムはファンクションメニュー「S:SUBTRM」で設定できます。（17ページ参照）
- スロットルのトリムはファンクションメニュー「T:SUBTRM」で設定できます。（25ページ参照）
- サブトリムの設定値が大きくなるように、サーボを搭載してください。

### セッティングのしかた

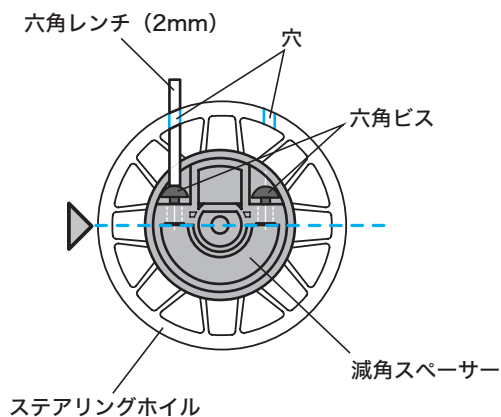
- 1 サーボを搭載する前に、センター位置を出します。
- 2 サーボを搭載して、トリムを中央に持ってくる場合は「S:SUBTRM」、「T:SUBTRM」を調整します。
- 3 テスト走行してみて、ニュートラルの状態を確認します。  
修正が必要な場合はサブトリムを調整します。
- 4 ニュートラルが決まったら、「S:BALANC」でステアリングバランスを調整して左右の回転半径が同じになります。（16ページ参照）
- 5 「S:TRAVEL」で、全体の切れ角を調整します。（16ページ参照）
- 6 練習走行中やレース中は、「S:TRM」と「T:TRM」でトリムを調整します。  
調整値が大きくなってきたらサブトリムを調整し直して、トリムが0になるようにします。

## ステアリング切れ角の調整

**メモ** 六角レンチ (2mm) を使用します。

- 1 ステアリングホイールのスポンジを外します。
- 2 ステアリングホイールの穴 (2カ所) に六角レンチ (2mm) を差し込んで、六角ビスを締めます。

**注意!** 左右均等に締めてください。



- 3 スポンジをステアリングホイールに取り付けます。

**メモ** 初期状態に戻すには六角ビスの先端が、減角スペーサーのネジ穴からギリギリ出ない状態にします。

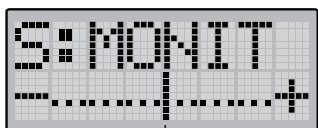
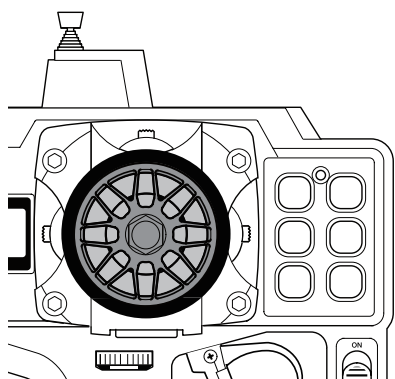
- 4 45 ページを参照して、「#ADJVOL」(アジャストボリューム) を設定します。

## ステアリング関連の設定

### ステア量の表示 (S:MONIT ステアリングモニター)

現在のステアリングの動作位置を確認できます。

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「S:MONIT」を表示させます。
- 2 ステアリングホイールを動かします。



ステアリングホイールの動きに合わせて移動します。

- メモ ステアリング操作の向きがリバースになっているときは、ステアリングホイールの動きとモニターの表示は逆になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。

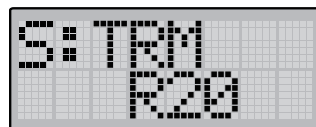
### ニュートラル位置の調整 (S:TRM ステアリングトリム)

走行中にニュートラル位置を調整したいときは、この設定を変更します。(13 ページ「トリムとサブトリムの設定」参照)

- メモ 動作角の端は動きません。ニュートラルの位置だけが動きます。
- メモ 動作角の端も動かしたいときは、「S:SUBTRM」(ステアリングサブトリム)を調整してください。(17 ページ参照)

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「S:TRM」を表示します。

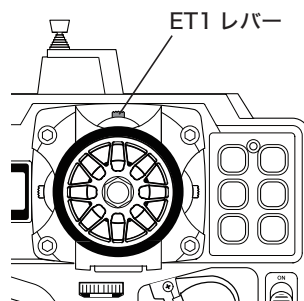
- 2 +キー/-キーを押してトリムの値を変更します。  
L50 ~ 0 ~ R50 の範囲で設定できます。



- メモ +キー/-キーを同時に押すと、トリムの値が0になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

- メモ 初期状態では、ET1 レバーでも「S:TRM」(ステアリングトリム)の設定ができます。レバーを左右に動かして設定値を変更できます。ただし、+キー/-キーを同時押ししても設定値は0になりません。



## 動作量の調整 (S:TRAVEL ステアリングトラベル)

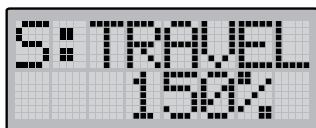
ステアリングホイールをいっぱいに切ったときの、ステアリングサーボの動作量を調整します。

**注意** 0% にするとステアリングが動作しません。

**注意** サーボに無理がかからない舵角に設定してください。故障の原因になります。

1 ダウンキー/アップキーを押して「S:TRAVEL」を表示します。

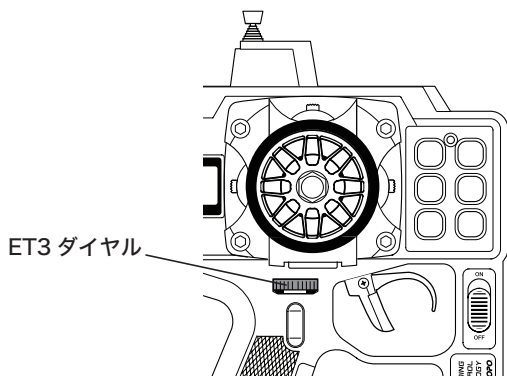
2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。  
0～150%の範囲で設定できます。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が100%になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

**メモ** 初期状態では、ET3ダイヤルでも「S:TRAVEL」(ステアリングトラベル)の設定ができます。ただし、ここで変更できるのは、上記のファンクションメニューで設定した値に対する割合(40～100%)です。  
ただし、+キー/-キーを同時に押ししても設定値は100%になりません。



**メモ** 左右の動作量をそれぞれ調整したいときは、「S:BALANC」(ステアリングバランス)を調整してください。(16ページ参照)

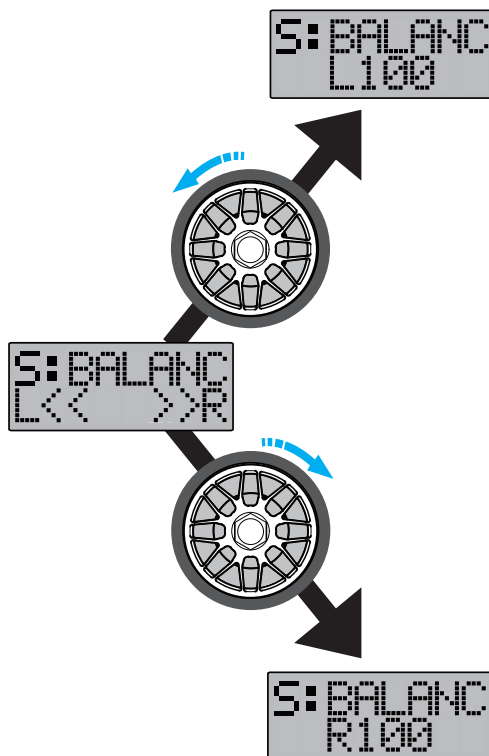
## 左右の舵角の個別調整 (S:BALANC ステアリングバランス)

左右それぞれの舵角を調整します。左右の回転半径を同じにしたいときに調整します。

1 ダウンキー/アップキーを押して「S:BALANC」を表示します。

2 舵角を調整したい方向にステアリングホイールを回します。

3 ステアリングを切ったまま、+キー/-キーを押して設定値を変更します。  
L、Rとも、40～100の範囲で設定できます。

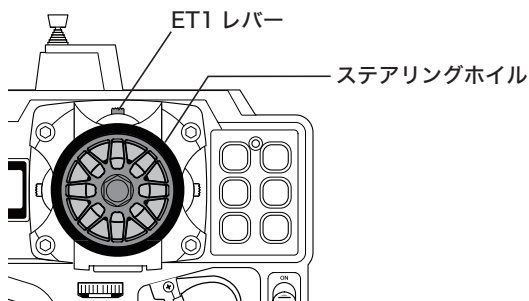


**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が100%になります。

4 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。



**メモ** ET1 レバーを動かして「S:TRM」(ステアリングトリム)の設定をしているときにステアリングを切ると、切った方向の「S:BALANC」(ステアリングバランス)の設定値が表示されます。(15 ページ「ニュートラル位置の調整」参照)



**メモ** 左右の設定値が大きくなってしまったときは、次の手順で設定してください。

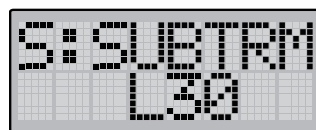
- (1) 「S:TRM」を 0 にする (15 ページ参照)
- (2) ステアリングがニュートラルの状態 で直進するように、「S:SUBTRM」を調整する (17 ページ参照)
- (3) 「S:BALANC」で左右の回転半径を調整する
- (4) 「S:TRAVEL」で全体の舵角を調整する (16 ページ参照)
- (5) 直進しないときは「S:TRM」で調整する

### 動作角の端とニュートラル位置の調整 (S:SUBTRM ステアリングサブトリム)

動作角の端とニュートラル位置を同時に調整できます。サーボの搭載時やテスト走行時に調整します。(13 ページ「トリムとサブトリムの設定」参照)

**メモ** ニュートラルの位置だけを調整したいときは、「S:TRM」(ステアリングトリム)を調整してください。(15 ページ参照)

- 1 ダウンキー / アップキーを押して「S:SUBTRM」を表示します。
- 2 +キー / -キーを押してサブトリムの値を変更します。  
L80 ~ 0 ~ R80 の範囲で設定できます。



**メモ** +キー / -キーを同時に押すと、サブトリムの値が 0 になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー / アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

**メモ** サブトリムの値が大きくなったときは、サブトリムが 0 に近づくようにリンケージを調整するなどしてください。サブトリムの値が大きいと、他のステアリング関連の設定によってはステアリングの左右の端でサーボが動かない「不感帯」(信号が変化しないエリア)ができることがあります。

### トリム1ステップの動作量の調整 (S:TRMRAT ステアリングトリムレート)

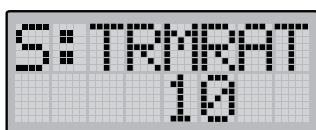
ステアリングトリムは 100 ステップになっていますが、この 1 ステップあたりの動作量を設定します。

**メモ** ステアリングトリムのステップ数は変わりませんので、トリムレートを変更することでトリムの調整可能範囲も変化します。

**注意** ステアリングトリムが設定済みの状態でトリムレートを変更すると、トリムの設定が 0 の場合以外はトリムがずれます。

1 ダウンキー/アップキーを押して「S:TRMRAT」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。5～20 の範囲で設定できます。数値が小さいほど動作量が小さくなります。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が 10 になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

**メモ** トリムレートを小さくすることで細かなトリム修正ができますが、サーボによっては十分な結果が得られない場合があります。

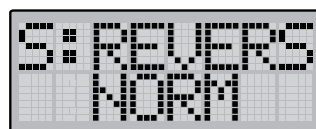
**メモ** リンケージやサーボにガタが多い場合は十分な結果が得られませんので、リンケージなどを見直してください。

### 動作方向の切り替え (S:REVERS ステアリングリバース)

サーボや ESC の動作方向が逆の場合に、ステアリングの動作方向をリバース (REVE) に設定します。

1 ダウンキー/アップキーを押して「S:REVERS」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定を切り替えます。  
NORM: ノーマル。通常の状態です。  
REVE: リバース。動作方向が逆になります。



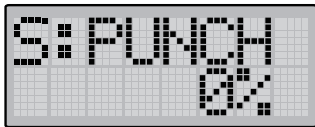
**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が NORM になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

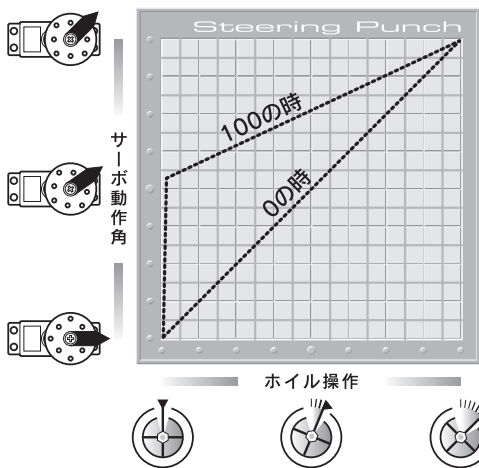
### 切り始めの反応のクイック化 (S:PUNCH ステアリングパンチ)

ステアリングを切り始めたときに、最初の領域だけ反応をクイックにします。

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「S:PUNCH」を表示します。
- 2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。  
0～100%の範囲で設定できます。



値が大きいほど、ステアリングを切り始めたときのサーボの動作角が大きくなります。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が0%になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

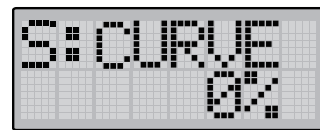
**メモ** ステアリングリンクageにガタが多い場合に効果があります。ただし、直進性は改善されません。

**メモ** 「S:SPEED」(ステアリングスピード) など他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら1項目ずつ設定を変更してください。

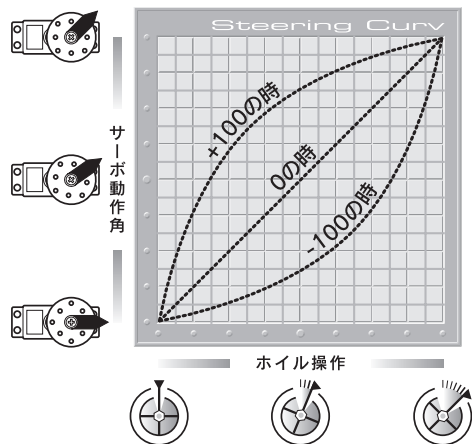
### 舵角とサーボ動作角の調整 (S:CURVE ステアリングカーブ)

ステアリングホイールの舵角に対するサーボの動作角の変化量を調整します。舵角に対する反応をクイック (+) かマイルド (-) にできます。

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「S:CURVE」を表示します。
- 2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。  
-100～100%の範囲で設定できます。



値が大きいと、舵角が小さいときにサーボは大きく動き、徐々に反応が緩くなります。値が小さいと、舵角が小さいときにサーボは緩く動き、徐々に反応が大きくなります。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が0%になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

**メモ** 切り始めの反応だけを変えたいときは、「S:PUNCH」(ステアリングパンチ) で調整してください。(19ページ参照)

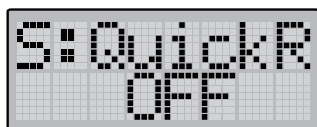
**メモ** 「S:SPEED」(ステアリングスピード) など他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら1項目ずつ設定を変更してください。

## ステアリングレスポンスの向上 (S:QuickR ステアリングクイックリアクション)

レスポンスモードで設定した状態から、さらにステアリング操作のレスポンスを向上させることができます。(9 ページ「動作モード (レスポンスモード) の切り替え」参照)

1 ダウンキー/アップキーを押して「S:QuickR」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。OFF、10～120% (10% 刻み) の範囲で設定できます。数値が大きいほどレスポンスが速くなります。



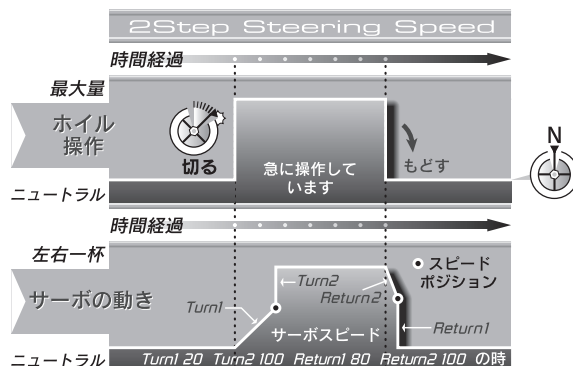
**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

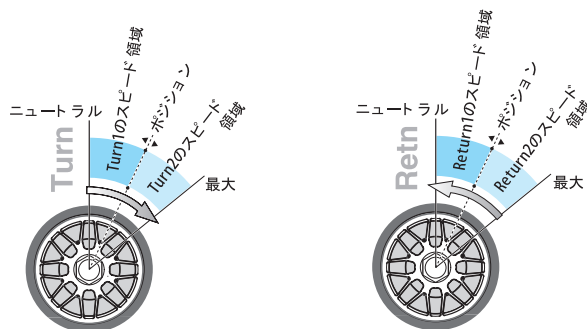
## 舵角に応じたサーボスピードの設定 (S:SPEED ステアリングスピード)

ステアリングを切る方向 (TURN) と戻す方向 (RETURN) に対し、ステアリングサーボの最大スピードを設定します。

2WAY 選択時は、ニュートラルから最大舵角までを2分割して、それぞれの領域でのステアリングサーボのスピードが設定できます。



各数値によりグラフの傾きが変わります。



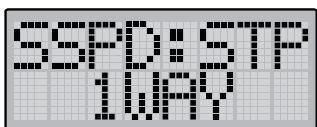
- 1) ダウンキー/アップキーを押して「S:SPEED」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。



- 2) 1) +キー/ーキーを押して、スピード機能の ON/OFF を切り替えるためのボタンを選択します。  
OFF、ET1 ~ ET5、BT1 のどれかを選択します。  
2) ダウンキーを押します。

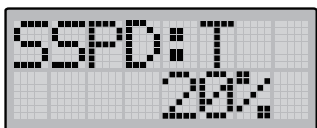


- 3) 1) +キー/ーキーを押して、スピードの切り替え段数 (1WAY / 2WAY) を選択します。  
2) ダウンキーを押します。



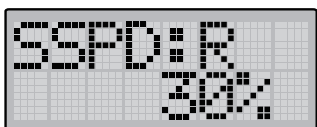
#### ◆1WAYを選択した場合

- 4) 1) +キー/ーキーを押して、Turn のスピードを設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が 100% になります。

- 5) 1) +キー/ーキーを押して、Return のスピードを設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。

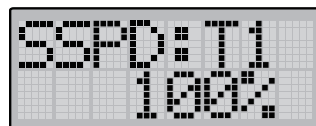


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が 100% になります。

- 2) 手順 8 に進みます。

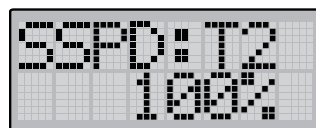
#### ◆2WAYを選択した場合

- 4) 1) +キー/ーキーを押して、Turn1 のスピードを設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。

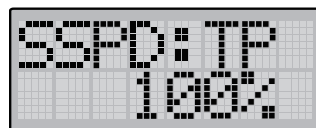


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が 100% になります。

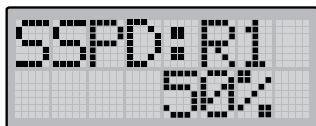
- 5) 手順 4 と同様に、Turn2 のスピードを設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。



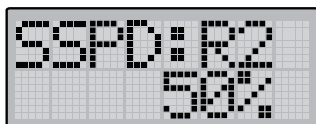
- 6) 手順 4 と同様に、Turn1 と Turn2 の切り替え位置を設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。



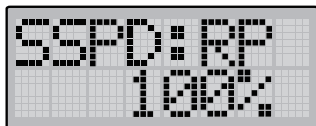
- 7 21 ページ「◆ 2WAY を選択した場合」の手順 4 ～ 6 と同様に、Return1 のスピード、Return2 のスピード、Return1 と Return2 の切り替え位置を設定します。



Return1 のスピードの設定画面



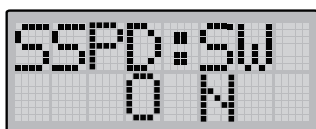
Return2 のスピードの設定画面



Return1 と Return2 の切り替え位置の設定画面

- 8 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 9 手順 2 で設定したボタンを押すと、スピード機能の ON/OFF が切り替えられます。



- ✖メモ 2WAY を選択すると、ステアリングホイールの切り始めはサーボがゆっくり動作し、さらに切り込むと速く動作するという設定が可能です。
- ✖メモ 路面がハイグリップでコーナリング時に横転してしまう場合は、2WAY を選択して切り始め時のスピード（Turn1）を落とすことで、転倒しなくなります。
- ✖メモ サーボのスピード性能によって、効果が発揮される数値が大きく異なります。実際に走行させてみて、最適なセッティングをテストしてください。

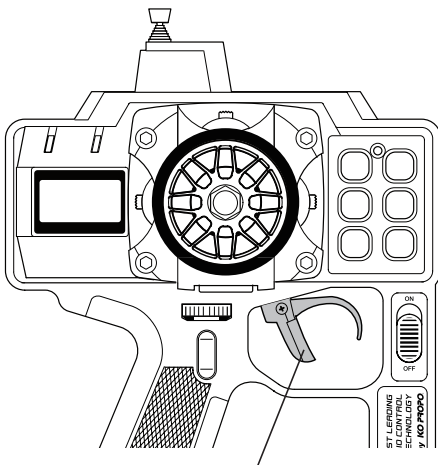
## スロットル関連の設定

### スロットルトリガー操作量の表示 (T:MONIT スロットルモニター)

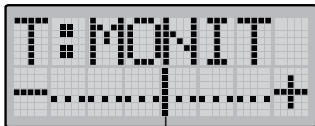
現在のスロットルトリガーの動作位置を確認できます。

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「T:MONIT」を表示させます。

- 2 スロットルトリガーを動かします。



スロットルトリガー



スロットルトリガーの動きに合わせて移動します。

- メモ スロットル操作の向きがリバースになっているときは、スロットルトリガーの動きとモニターの表示は逆になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。

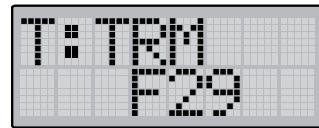
### ニュートラル位置の調整 (T:TRM スロットルトリム)

走行中にニュートラル位置を調整したい場合に、設定を変更します。(13 ページ「トリムとサブトリムの設定」参照)

- メモ 電動カーの場合は ESC 側で標準設定を行えば、基本的にトリム調整は不要です。
- メモ 動作角の端は動きません。ニュートラルの位置だけが動きます。
- メモ 動作角の端も動かしたいときは、「T:SUBTRM」(スロットルサブトリム)を調整してください。(25 ページ参照)

- 1 ダウンキー/アップキーを押して「T:TRM」を表示します。

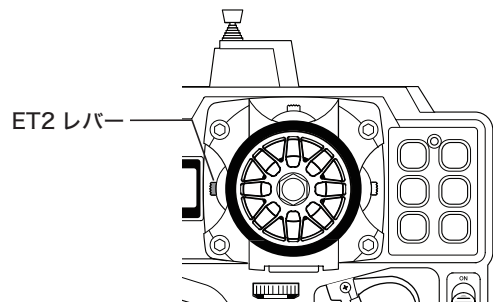
- 2 +キー/-キーを押してトリムの値を変更します。B50 ~ 0 ~ F50 の範囲で設定できます。



- メモ +キー/-キーを同時に押すと、トリムの値が 0 になります。

- 3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

- メモ 初期状態では、ET2 レバーでも「T:TRM」(スロットルトリム)の設定ができます。レバーを上下に動かして設定値を変更できます。ただし、+キー/-キーを同時押ししても設定値は 0 になりません。





## 前進側の動作量の設定 (T:HiPOT スロットルハイポイント)

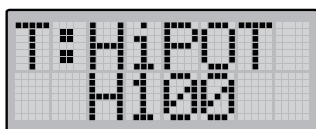
スロットルの前進側だけの最大動作量を設定します。電動カーの場合は ESC の最高速のポイント、エンジンカーの場合はキャブレターのハイ側の設定に使用します。

**注意** エンジンカーで設定値を大きくしすぎると、リンケージが突っ張ってサーボの負荷が増え、破損の原因となる場合があります。

**注意** 電動カーで ESC をセットアップする場合、設定値が小さすぎるとセットアップがうまくできないことがあります。その場合は初期値 (H100) に戻してからセットアップしてください。

1 ダウンキー/アップキーを押して「T:HiPOT」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。H0 ~ H150 の範囲で設定できます。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が H100 になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

**注意** 最小値 (H0) にすると、まったく前進しなくなります。

**注意** 「T:HiPOT」(スロットルハイポイント) の設定値を小さく、T:TRM (スロットルトリム) の設定値を大きくすると、サーボの動作量が非常に小さくなりますので、ご注意ください。(23 ページ「ニュートラル位置の調整」参照)

## ブレーキ側の動作量の設定 (T:BRAKE ブレーキ)

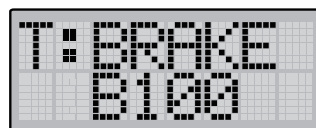
スロットルのブレーキおよびバック側だけの最大動作量を設定します。

**注意** エンジンカーの場合は設定値を大きくしすぎると、リンケージが突っ張ってサーボの負荷が増え、破損の原因となる場合があります。

**注意** 電動カーで ESC をセットアップする場合、設定値が小さすぎるとセットアップがうまくできないことがあります。その場合は初期値 (B100) に戻してからセットアップしてください。

1 ダウンキー/アップキーを押して「T:BRAKE」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。B0 ~ B150 の範囲で設定できます。

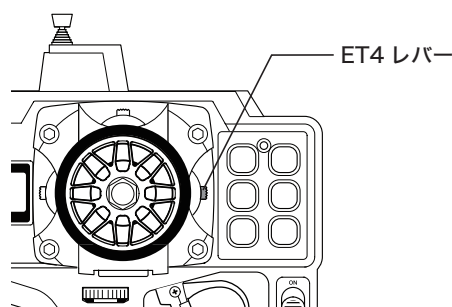


**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が B100 になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

**注意** 最小値 (B0) にすると、ブレーキがまったく効かなくなったり、バックしなくなります。また、ESC 側の機能も影響しますので、走行前には必ずブレーキが効くかテストしてください。

**メモ** 初期状態では、ET4 レバーでも「T:BRAKE」(スロットルブレーキ) の設定ができます。レバーを上下に動かして設定値を変更できます。ただし、+キー/-キーを同時押ししても設定値は B100 になりません。





## 動作角の端とニュートラル位置の調整 (T:SUBTRM スロットルサブトリム)

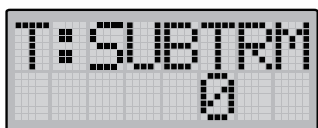
動作角の端とニュートラル位置を同時に調整できます。サーボの搭載時やテスト走行時に調整します。(13 ページ「トリムとサブトリムの設定」参照)

**メモ** ニュートラルの位置だけを調整したいときは、「T:TRM」(スロットルトリム)を調整してください。(23 ページ参照)

1 ダウンキー/アップキーを押して「T:SUBTRM」を表示します。

2 +キー/-キーを押してサブトリムの値を変更します。

B80 ~ 0 ~ F80 の範囲で設定できます。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、サブトリムの値が0になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

**メモ** サブトリムの値が大きくなったときは、サブトリムが0に近付くようにリンケージを調整するなどしてください。サブトリムの値が大きいと、他のスロットル関連の設定によってはスロットルの前後の端でサーボが動かない「不感帯」(信号が変化しないエリア)ができることがあります。

## トリム1ステップの動作量の調整 (T:TRMRAT スロットルトリムレート)

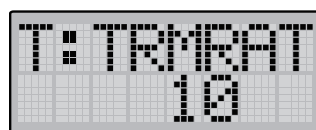
スロットルトリムは100ステップになっていますが、この1ステップあたりの動作量を設定します。

**メモ** スロットルトリムのステップ数は変わりませんので、トリムレートを変更することでトリムの調整可能範囲も変化します。

**注意** スロットルトリムが設定済みの状態でトリムレートを変更すると、トリムの設定が0の場合以外はトリムがずれません。

1 ダウンキー/アップキーを押して「T:TRMRAT」を表示します。

2 +キー/-キーを押して設定値を変更します。5 ~ 20 の範囲で設定できます。数値が小さいほど動作量が小さくなります。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が10になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

**メモ** トリムレートを小さくすることで細かいトリム修正ができますが、サーボによっては十分な結果が得られない場合があります。

**メモ** リンケージやサーボにガタが多い場合は十分な結果が得られませんので、リンケージなどを見直してください。

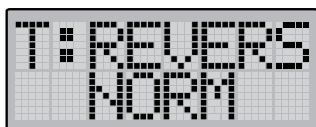
### 動作方向の切り替え (T:REVERS スロットルリバース)

サーボや ESC の動作方向が逆の場合に、スロットルの動作方向をリバース (REVE) に設定します。

**メモ** 電動カーで ESC を使用する場合、標準設定で動作方向を自動認識できる ESC であれば、送信機側でリバースの設定は不要です。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T:REVERS」を表示します。

- 2) +キー/-キーを押して設定を切り替えます。  
NORM： ノーマル。通常の状態です。  
REVE： リバース。動作方向が逆になります。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が NORM になります。

- 3) バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

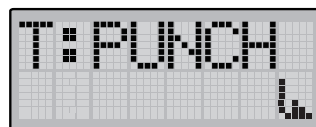
### 初期反応のクイック化 (T:PUNCH スロットルパンチ)

スロットルトリガーを操作するときに、最初の領域をスキップすることで反応をクイックにします。

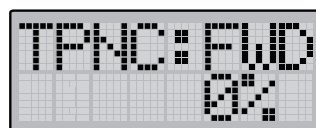
**メモ** エンジンカーでクラッチミートのタイムラグを解消する場合や、ブレーキの利き始めの強さを調整する場合に有効です。

**メモ** 電動カーで、ESC の前進側 / ブレーキ側の反応をクイックにしたい場合に有効です。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T:PUNCH」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。



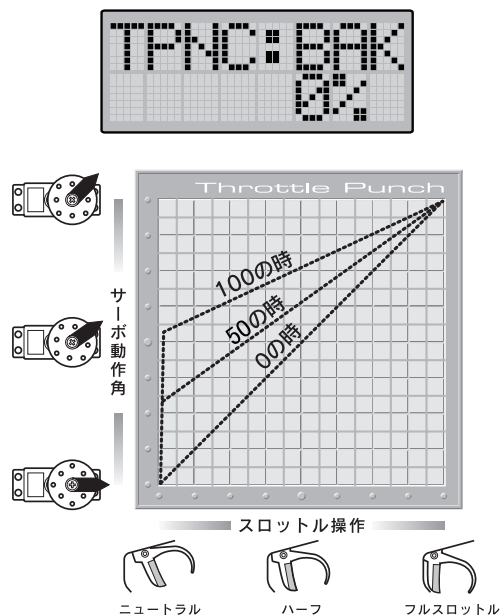
- 2) 1) +キー/-キーを押して、前進側の設定値を変更します。  
0 ~ 100% の範囲で設定できます。  
値が大きいくほど、スロットルトリガーを動かし始めたときのサーボの動作角が大きくなります。
- 2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が 0% になります。

### 3 +キー/ーキーを押して、バック側の設定値を変更します。

0～100%の範囲で設定できます。  
値が大きいほど、スロットルトリガーを動かし始めたときのサーボの動作角が大きくなります。



**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が0%になります。

### 4 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。

設定内容が保存されます。

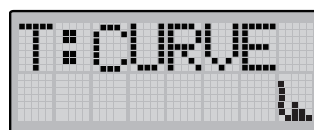
**注意** 他のスロットル関連メニューの設定値によっては、スロットルの反応がON/OFFスイッチのようになることがありますので、ご注意ください。

**メモ** 「T.ABS」（ABS）などの機能と組み合わせてセッティングするときは、動作をよく確認してください。

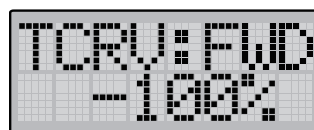
### スロットルトリガー操作量とサーボ動作角の調整 (T:CURVE スロットルカーブ)

スロットルトリガーの操作量に対するサーボの動作角の変化量を調整します。スロットルトリガー操作に対する反応をクイック（+）かマイルド（-）にできます。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T: CURVE」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック（ファンクション）キーを押します。



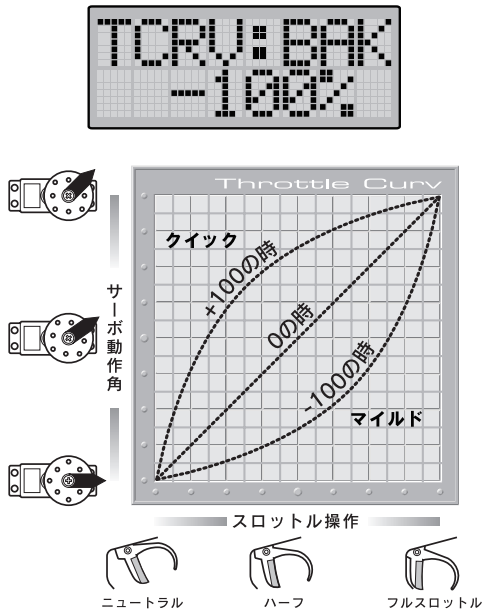
- 2) 1) +キー/ーキーを押して、前進側の設定値を変更します。  
- 100～100%の範囲で設定できます。  
値が大きいほど、スロットルトリガーを動かし始めたときのサーボの動作角が大きくなります。
- 2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が0%になります。

### 3 +キー/ーキーを押して、バック側の設定値を変更します。

ー 100 ~ 100% の範囲で設定できます。  
値が大きいほど、スロットルトリガーを動かしたときのサーボの動作角が大きくなります。



**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が0%になります。

### 4 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。

設定内容が保存されます。

**メモ** クイックカーブ（数値が+）の場合は最初に大きく反応し、徐々に反応が鈍くなります。マイルドカーブ（数値が-）の場合は最初の反応が鈍く、徐々に反応が大きくなります。

**メモ** 切り始めの反応だけを変えたいときは、「T: PUNCH」（スロットルパンチ）で調整してください。（26 ページ参照）

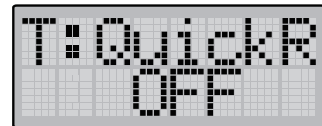
**メモ** 他の設定項目と組み合わせるときは、効果を確認しながら1項目ずつ設定を変更してください。

### スロットルレスポンスの向上 (T:QuickR スロットルクイックリアクション)

レスポンスモードで設定した状態から、さらにスロットル操作のレスポンスを向上させることができます。（9 ページ「動作モード（レスポンスモード）の切り替え」参照）

1 ダウンキー/アップキーを押して「T:QuickR」を表示します。

2 +キー/ーキーを押して設定値を変更します。  
OFF、10 ~ 120%（10% 刻み）の範囲で設定できます。数値が大きいほどレスポンスが速くなります。



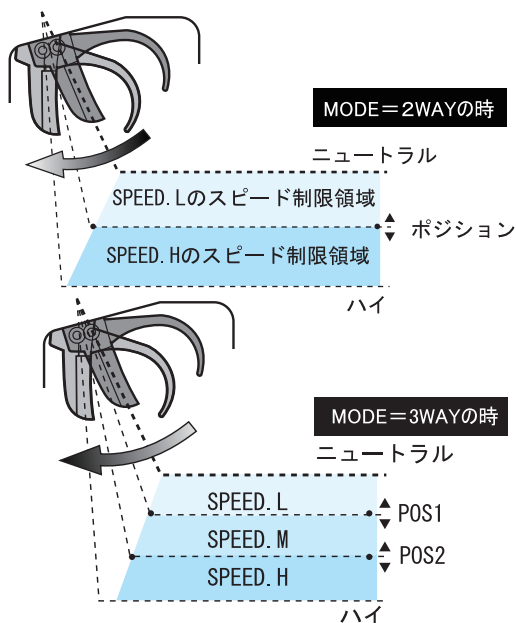
**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

3 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

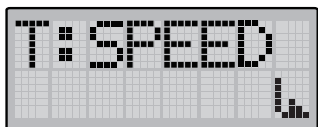
## スロットルの反応速度の調整 (T:SPEED スロットルスピード)

スロットルトリガーを速く動かしてもサーボが急に反応しないように制御することで、車をコントロールしやすくします。

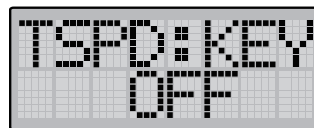
2WAY または 3WAY 選択時は、ニュートラルから全開までを 2 分割または 3 分割して、それぞれの領域でのスロットルサーボのスピードが設定できます。



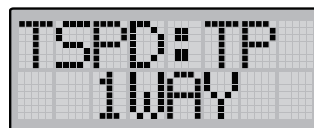
- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T: SPEED」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。



- 2) 1) +キー/-キーを押して、スピード機能の ON/OFF を切り替えるためのボタンを選択します。  
OFF、ET1 ~ ET5、BT1 のどれかを選択します。
- 2) ダウンキーを押します。

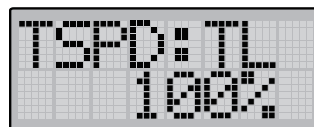


- 3) 1) +キー/-キーを押して、加速側のスピードの切り替え段数 (1WAY / 2WAY / 3WAY) を選択します。
- 2) ダウンキーを押します。



### ◆1WAYを選択した場合

- 4) 1) +キー/-キーを押して、加速側のスピードを設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。
- 2) ダウンキーを押します。

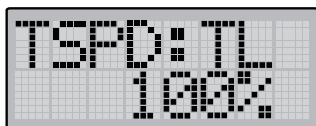


**×メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が 100% になります。

手順 9 に進みます。

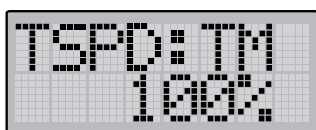
#### ◆2WAYを選択した場合

- 4 1) +キー/ーキーを押して、1段目のスピードを設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。

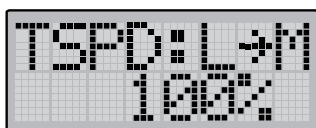


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が100%になります。

- 5 1) 手順4と同様に、2段目のスピードを設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



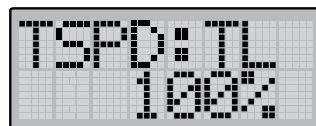
- 6 1) 手順4と同様に、1段目から2段目への切り替え位置を設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



手順9に進みます。

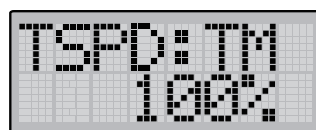
#### ◆3WAYを選択した場合

- 4 1) +キー/ーキーを押して、1段目のスピードを設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。

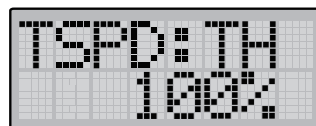


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が100%になります。

- 5 1) 手順4と同様に、2段目のスピードを設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



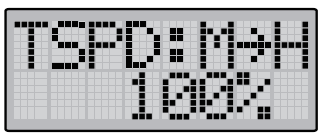
- 6 1) 手順4と同様に、3段目のスピードを設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



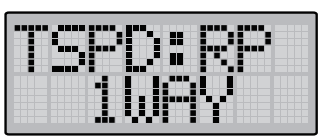
- 7 1) 手順4と同様に、1段目から2段目への切り替え位置を設定します。  
1%～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



- 8 1) 手順 4 と同様に、2 段目から 3 段目への切り替え位置を設定します。  
1% ~ 100% の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。

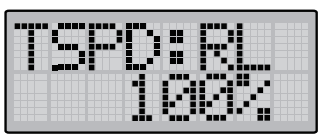


- 9 1) +キー/ーキーを押して、減速側のスピードの切り替え段数 (1WAY / 2WAY / 3WAY) を選択します。  
2) ダウンキーを押します。



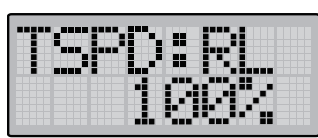
- 10 加速側と同様に、減速側のスピードなどを設定します。

◆1WAYを選択した場合

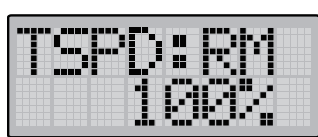


減速側のスピードの設定画面

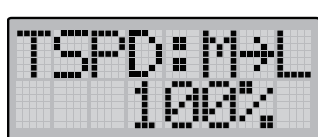
◆2WAYを選択した場合



減速側 1 段目スピードの設定画面

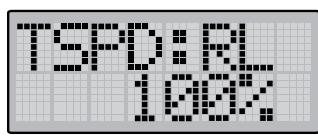


減速側 2 段目スピードの設定画面

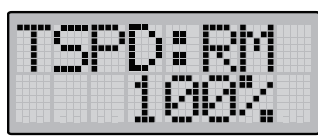


2 段目と 1 段目の切り替え位置の設定画面

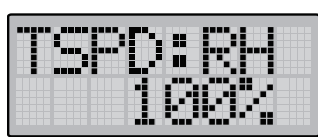
◆3WAYを選択した場合



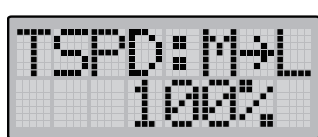
減速側 1 段目スピードの設定画面



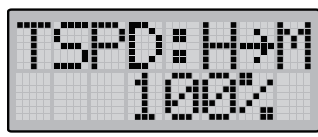
減速側 2 段目スピードの設定画面



減速側 3 段目スピードの設定画面



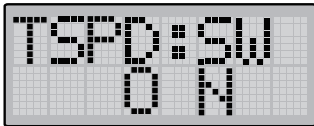
2 段目と 1 段目の切り替え位置の設定画面



3 段目と 2 段目の切り替え位置の設定画面

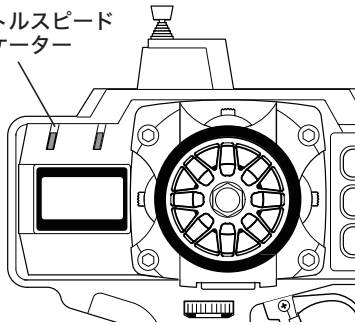
11 バックボタンを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

12 手順 2 で設定したボタンを押すと、スピード機能の ON/OFF が切り替えられます。



**メモ** スロットルスピードが有効なときは、スロットルスピードインジケータが点滅します。

スロットルスピード  
インジケータ




**メモ** エンジンカーだけでなく、電動カーの ESC を使用した場合でも設定は有効です。


任意の位置にスロットルサーボを動かす (T:IDLEUP スロットルアイドルアップ)

本機の ET レバーや BT ボタンを操作したときに、スロットルサーボを任意の位置に動かします。(プリセット)

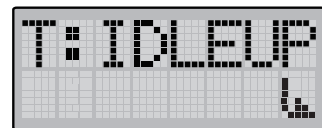
エンジンカットやアイドルアップ、フルブレーキ、バック走行などに利用できます。

**注意!**

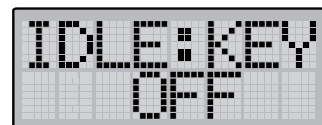
 この機能を使用するときは、必ず動作確認をする。誤った設定を行うと、車が暴走したり破損する恐れがあります。

 この機能を使用しないときは、ボタンに割り当てない。誤ってボタンを押すと、車が暴走したり破損する恐れがあります。

- 1) ダウンキー / アップキーを押して「T: IDLEUP」を表示します。  
2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。

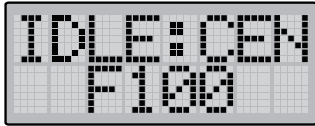


- 2) 1) +キー / -キーを押して、この機能の ON/OFF を切り替えるためのボタンを選択します。  
OFF、ET1 ~ ET5、BT1 のどれかを選択します。  
2) ダウンキーを押します。



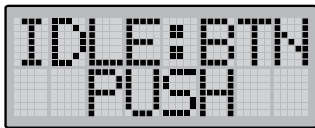


- 3) 1) +キー/ーキーを押して設定値を変更します。  
B100～0～F100の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



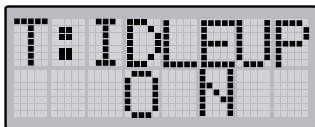
**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が0になります。

- 4) +キー/ーキーを押してプリセットの出力方法を選択します。  
PUSH: ボタンを押している間はプリセット出力する  
TGLE: ボタンを押すたびにプリセット出力のON/OFFを切り替える



- 5) バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 6) 手順2で設定したボタンを押す（または押し続ける）と、スロットルサーボが設定した状態になります。



**メモ** この機能で設定したスロットル位置は、他の機能の設定に影響されません。例えばF100に設定した場合は、「T:HiPOT」（スロットルハイポイント）を0に設定していても、プリセット出力が有効になっている間はスロットルサーボはF100の位置に動きます。

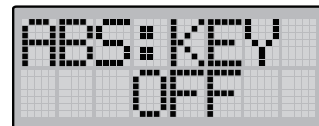
## ABS の設定 (T:ABS ABS)

ABS（アクティブ・ブレーキコントロール・システム）のポンピングの量を設定します。  
ブレーキングでホイールがロックしてしまい、車の姿勢が乱れる場合に効果があります。また、コーナリングもスムーズになります。

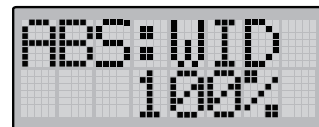
- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T:ABS」を表示します。  
2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック（ファンクション）キーを押します。



- 2) 1) +キー/ーキーを押して、この機能のON/OFFを切り替えるためのボタンを選択します。  
OFF、ET1～ET5、BT1のどれかを選択します。  
2) ダウンキーを押します。

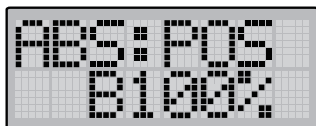


- 3) 1) +キー/ーキーを押して、ポンピング幅を設定します。  
1～100%の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



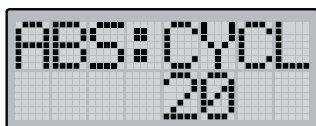
**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が100%になります。

- 4) 1) +キー/-キーを押して、ポンピングを始める位置を設定します。  
B5 ~ B100% の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が100%になります。

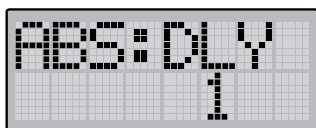
- 5) 1) +キー/-キーを押して、ポンピングの周期を設定します。  
1 ~ 100 の範囲で設定できます。数値を大きくするとサーボが速く動作して、ポンピングの周期が短くなります。  
2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が1になります。

**注意** 数値を大きくしすぎるとサーボの動作電流が増え、サーボの寿命を縮めてしまうことがあります。

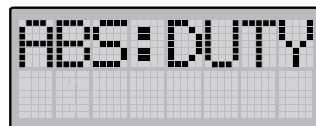
- 6) 1) +キー/-キーを押して、ポンピングを開始するまでの遅延時間を設定します。  
1 ~ 50 の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が1になります。

**メモ** ブレーキングを開始してからポンピング動作が始まるまでは、強めにブレーキがかかります。

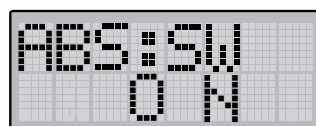
- 7) +キー/-キーを押して、ブレーキ ON 時間とブレーキ OFF 時間の比率を設定します。  
8 段階で設定できます。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が4段階目になります。

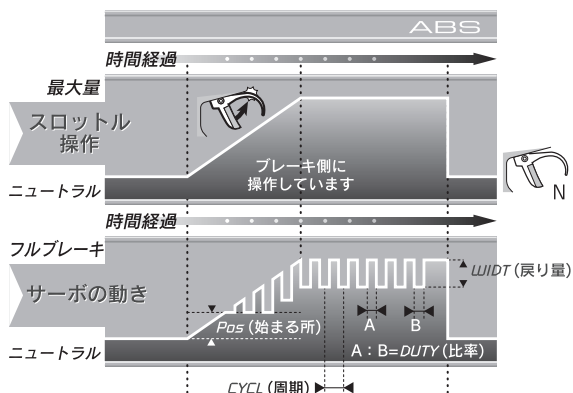
- 8) バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 9) 手順 2 で設定したボタンを押すと、ABS の ON/OFF が切り替えられます。



## ポンピング幅 (ABS:WID) とポンピング開始位置 (ABS:POS)

実際にサーボが行う ABS の動作量は、スロットルトリガーの操作量と「ABS:WID」、「ABS:POS」の設定値との関係で決まります。



「ABS:WID」が 50%、「ABS:POS」が 30% の場合の図

「ABS:WID」が 100% のとき、「ABS:POS」で設定した位置までサーボが戻ります。

「ABS:WID」の値を小さくすると、「ABS:POS」で設定した位置までサーボが戻らなくなります。

「ABS:POS」の数値が小さいほどサーボの動作量が増えます。

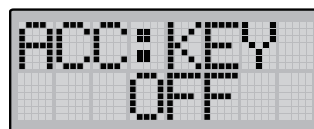
## スロットルのあおり (アクセレーション) (T:ACCEL スロットルアクセレーション)

上級者の行うスロットルの「あおり」を自動で付加します。コーナリングスピードを向上できます。

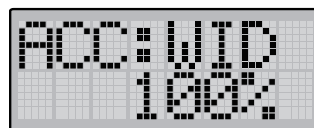
- 1) ダウンキー / アップキーを押して「T:ACCEL」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。



- 2) 1) + キー / - キーを押して、この機能の ON/OFF を切り替えるためのボタンを選択します。  
OFF、ET1 ~ ET5、BT1 のどれかを選択します。
- 2) ダウンキーを押します。



- 3) 1) + キー / - キーを押して、あおりのスイング幅を設定します。  
1 ~ 100% の範囲で設定できます。
- 2) ダウンキーを押します。



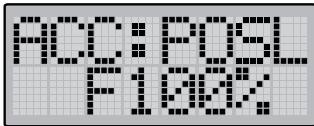
**メモ** + キー / - キーを同時に押すと、設定値が 100% になります。

**注意!** 数値を大きくしすぎると、サーボの動作電流が増えてサーボの寿命を縮めてしまうことがあります。

- 4 1) +キー/ーキーを押して、スイングを開始するスロットルトリガーの下側の位置を設定します。

F1 ~ F100% の範囲で設定できます。

- 2) ダウンキーを押します。



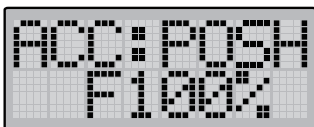
**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が100%になります。

**メモ** 「ACC:POSH」より大きな値は設定できません。「ACC:POSH」と同じ値を設定した場合、この機能は動きません。

- 5 1) +キー/ーキーを押して、スイングを開始するスロットルトリガーの上側の位置を設定します。

F1 ~ F100% の範囲で設定できます。

- 2) ダウンキーを押します。

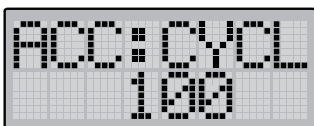


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が100%になります。

**メモ** 「ACC:POSL」より小さな値は設定できません。「ACC:POSL」と同じ値を設定した場合、この機能は動きません。

- 6 +キー/ーキーを押して、スイングの周期を設定します。

1 ~ 100 の範囲で設定できます。

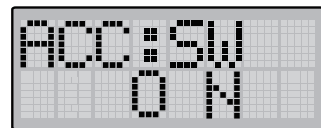


**メモ** +キー/ーキーを同時に押すと、設定値が1になります。

**注意** 数値を大きくしすぎるとサーボの動作電流が増え、サーボの寿命を縮めてしまうことがあります。

- 7 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

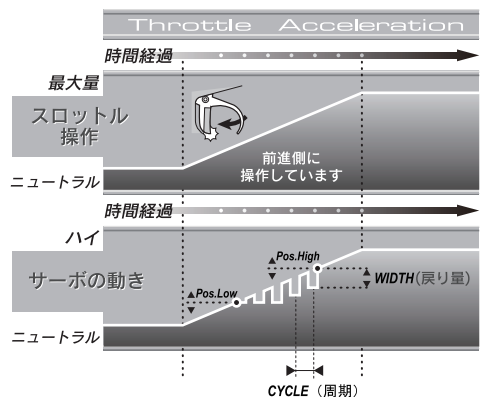
- 8 手順2で設定したボタンを押すと、スロットルアクセレーション機能のON/OFFが切り替えられます。



**メモ** サーボ、車、路面状態など、様々な条件によって最適な設定値が異なります。実際に走行させて設定をテストしてください。

### スイング幅 (ACC:WID) とスロットルトリガーの位置 (ACC:POSL, ACC:POSH)

実際にサーボが行うスイングの動作量は、スロットルトリガーの操作量と「ACC:WID」、「ACC:POSL」、「ACC:POSH」の設定値との関係で決まります。



WIDTH の設定値が0の場合、アクセレーションはOFFです。

POS.LOW と POS.HIGH の設定値が同じ場合、アクセレーションはOFFです。

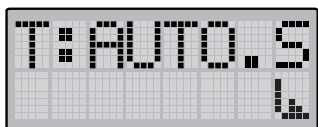
ONの状態ですロットルアクセレーションインジケータが点滅します。

## スタート時のスロットル量を一定にする (T:AUTO.S オートスタート)

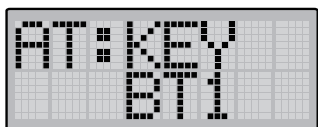
スタート時にスロットルトリガーを引いたときに、スロットルの位置をあらかじめ設定した位置にします。

スロットルトリガーを少し戻すと設定が解除され、通常どおりスロットル操作できるようになります。

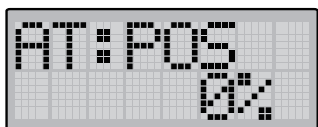
- 1) ダウンキー/アップキーを押して「T:AUTO.S」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック（ファンクション）キーを押します。



- 2) 1) +キー/-キーを押して、オートスタートを開始するためのボタンを選択します。  
OFF、ET1～ET5、BT1 のどれかを選択します。
- 2) ダウンキーを押します。

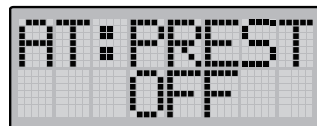


- 3) 1) +キー/-キーを押して、オートスタートをONにするスロットルトリガーの位置を設定します。  
0～100%の範囲で設定できます。
- 2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値が0%になります。

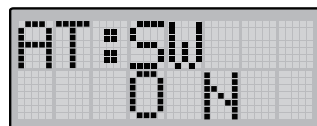
- 4) +キー/-キーを押して、オートスタート時のスロットル位置（サーボの位置）を設定します。  
0～100%の範囲で設定できます。



**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

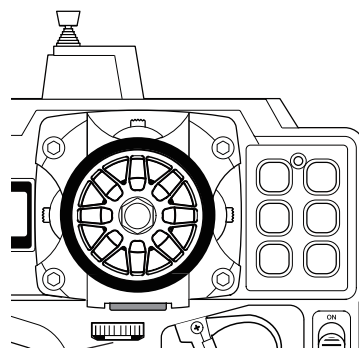
- 5) バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 6) 手順2で設定したボタンを押すと、オートスタートのON/OFFが切り替えられます。



**注意** 使用前に必ずテストしてください。

**メモ** 初期状態では、BT1ボタンでも「T:AUTO.S」（スロットルオートスタート）の設定ができません。ボタンを押すとON/OFFが切り替えられます。



BT1ボタン

チャンネル増設アダプターを使用する場合に、3ch

## 3ch / 4ch の設定

や 4ch の設定をします。

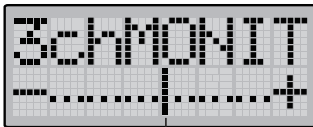
**メモ** KR-302F/FS/FSC 及び KR-301F/FS は、3ch 対応受信機ですので 4ch を使用することができません。4ch 対応受信機 ( 弊社発売予定品 ) をご使用ください。

**メモ** 3ch と 4ch の設定方法などは同じです。ここでは 3ch の場合の画面を例に説明しています。

### 動作量の表示 (3chMONIT 3ch モニター) (4chMONIT 4ch モニター)

現在の 3ch ( または 4ch ) の動作量を確認できます。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「3chMONIT」( または 「4chMONIT」 ) を表示させます。
- 2) 3ch または 4ch を操作します。



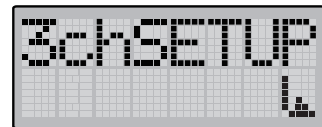
動作量に合わせて移動します。

- 3) バック ( ファンクション ) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。

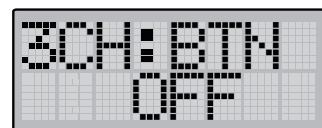
### 各位置での出力量の設定 (3chSETUP 3ch の設定) (4chSETUP 4ch の設定)

3ch または 4ch を操作するボタンと、各位置 ( ポジション 1 ~ 5 ) での出力量を設定します。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「3chSETUP」または「4chSETUP」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック ( ファンクション ) キーを押します。



- 2) 1) +キー/ーキーを押して、3ch または 4ch を操作するためのボタンを選択します。  
OFF、ET1 ~ ET5、BT1 のどれかを選択します。
- 2) アップキーを押します。



- 3 1) +キー/−キーを押して、切り替えるためのスイッチ操作の方法を選択します。  
 選択できるスイッチ操作の方法は次のとおりです。

PUSH: : POS3 ← (−) − POS1 − (+) →  
 POS2

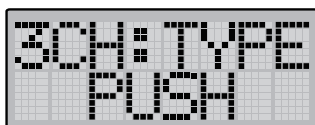
STEP2 : POS1 ↔ POS2

STEP3 : POS1 ↔ POS2 ↔ POS3

STEP4 : POS1 ↔ POS2 ↔ POS3 ↔  
 POS4

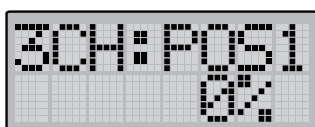
STEP5 : POS1 ↔ POS2 ↔ POS3 ↔  
 POS4 ↔ POS5

- 2) アップキーを押します。



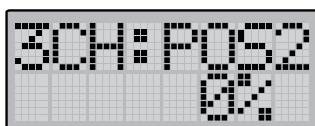
- 4 1) +キー/−キーを押して、POS1 出力の量を選択します。  
 − 100% ~ 0 ~ 100% の範囲で設定できます。

- 2) アップキーを押します。

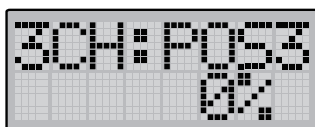


**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値が0になります。

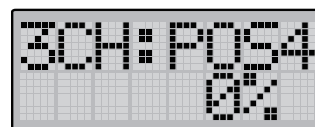
- 5 同様に、POS2 ~ POS5 出力の量も設定します。



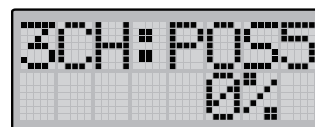
POS2 出力量の設定画面



POS3 出力量の設定画面



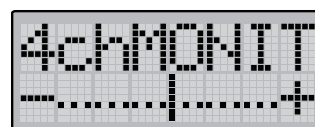
POS4 出力量の設定画面



POS5 出力量の設定画面

- 6 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻ります。  
 設定内容が保存されます。

- 7 手順2で設定したボタンを押すと、3ch または 4ch の出力量が切り替えられます。



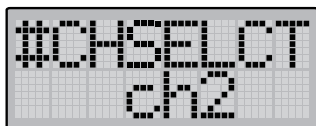
## その他の設定

### 出力チャンネル数の設定 (#CHSELECT チャンネルセレクト)

出力するチャンネル数を設定します。「#RESPONS」の設定値に応じて動作モード（レスポンスモード）の設定も変わりますので、注意してください。（9ページ「動作モード（レスポンスモード）の切り替え」参照）

1 ダウンキー／アップキーを押して「#CHSELECT」を表示させます。

2 +キー／-キーを押して設定を変更します。  
ch2、ch3、ch4 のいずれかを選択できます。



3 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー／アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

### 出力フレームの設定 (#RESPONS レスポンス)

送信機から発射する信号のレスポンスを変更します。（9ページ「動作モード（レスポンスモード）の切り替え」参照）

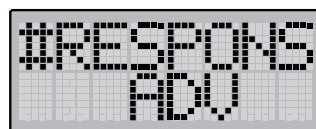
1 ダウンキー／アップキーを押して「#RESPONS」を表示させます。

2 +キー／-キーを押して設定を変更します。  
NORM、HIGH、ADV のいずれかを選択できます。

NORM： ノーマルレスポンス  
(Normal Response)

HIGH： スーパーハイスピードレスポンス  
(Super High Speed Response)

ADV： アドバンスドハイスピードレスポンス  
(Advanced High Speed Response)



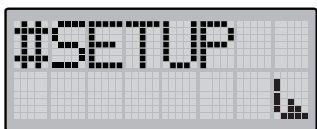
3 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー／アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。



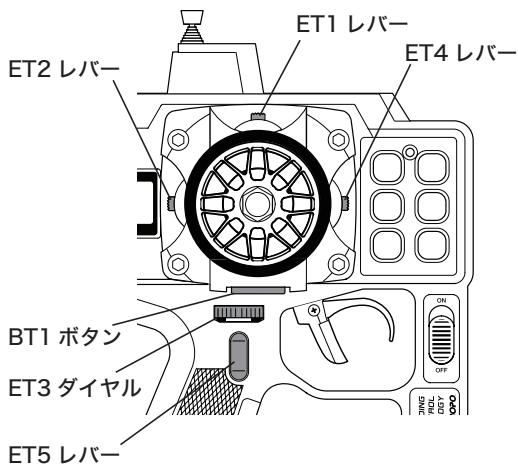
## ボタンへの機能の割り当て (#SETUP セットアップ)

ET レバーや BT ボタンに機能を割り当てます。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#SETUP」を表示させます。
- 2) エンターキーを押します。

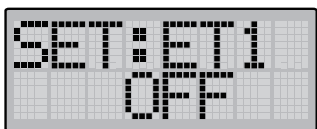


- 2 機能を割り当てたい ET レバー、または BT ボタンを押します。



**メモ** ダウンキー／アップキーで画面を切り替えることもできます。

- 3 +キー／-キーを押して割り当てる機能を選択します。



ET1 に機能を割り当てる場合

**メモ** 他のレバーやボタンに割り当て済みの機能は、選択時に点滅表示になります。

- 4 他のレバーやボタンにも機能を割り当てる場合は、手順 2 ～手順 3 を繰り返します。

- 5 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 6 レバーやボタンを押すと、割り当てた機能の画面が表示されます。

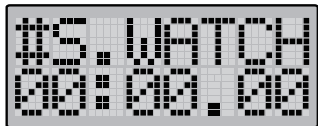
### メモ 割り当て可能なメニュー

OFF	なし
S:TRM	ステアリングトリム
S:TRAVEL	ステアリングトラベル
S:BALANC	ステアリングバランス
S:SUBTRM	ステアリングサブトリム
S:TRMRAT	ステアリングトリムレート
S:REVERS	ステアリングリバース
S:PUNCH	ステアリングパンチ
S:CURVE	ステアリングカーブ
SSPD:SW	ステアリングスピードスイッチ
T:TRM	スロットルトリム
T:HiPOT	ハイポイント
T:BRAKE	ブレーキ
T:SUBTRM	スロットルサブトリム
T:TRMRAT	スロットルトリムレート
T:REVERS	スロットルリバース
TPNC:FWD	スロットルパンチ（前進）
TPNC:BAK	スロットルパンチ（バック）
TCRV:FWD	スロットルカーブ（前進）
TCRV:BAK	スロットルカーブ（バック）
T:IDLEUP	スロットルアイドルアップ
TSPD:SW	スロットルスピードスイッチ
T:ABS	ABS
ABS:WID	ABS ワイズ
ABS:POS	ABS ポジション
ABS:CYCL	ABS サイクル
ABS:DLY	ABS ディレイ
ABS:DUTY	ABS デューティ
T:ACCEL	スロットルアクセラレーション
ACC:WID	アクセラレーションワイズ
ACC:POSL	アクセラレーションポジション（ロウ）
ACC:POSH	アクセラレーションポジション（ハイ）
ACC:CYCL	アクセラレーションサイクル
AT:SW	オートスタートスイッチ
SW:CLICK	ストップウォッチ
SW:LAP**	ラップタイマー
DT:CLICK	ダウンタイマー
3chBTN	3ch コントロール
4chBTN	4ch コントロール

## ストップウォッチ (#S.WATCH ストップウォッチ)

ストップウォッチでラップタイムなど計測できます。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#S.WATCH」を表示します。



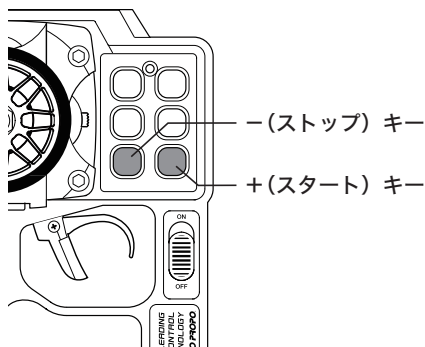
### すぐにタイムを計測する場合

+ (スタート) キーまたは手順4で割り当てたボタンを押して計測を開始します。

- (ストップ) キーまたは手順4で割り当てたボタンを押して計測を停止します。

停止中にもう一度、+ (スタート) キーまたは手順4で割り当てたボタンを押すと、計測が再開されます。

- (ストップ) キーまたは手順4で割り当てたボタンを長押しすると、タイムが00:00.00に戻ります。



- 2) エンターキーを押します。

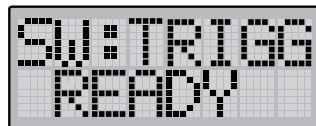
- 2) ダウンキーを押します。



スロットルトリガーを引くと同時にタイム計測を開始する場合

エンターキーを押します。

スロットルトリガーを引くと、タイム計測が始まります。

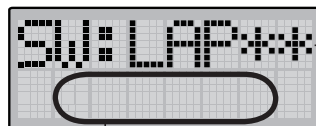


計測を停止するときは- (ストップ) キーを押します。

停止中に+ (スタート) キーを押すと、計測が再開されます。

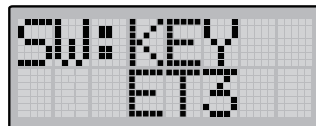
- (ストップ) キーを長押しすると、タイムが00:00.00に戻ります。

- 3) ダウンキーを押します。

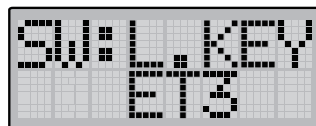


周回数ごとのラップタイム      ラップ数 (周回数)

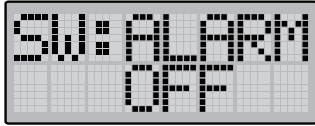
- 4) 1) +キー/-キーを押して、計測をスタート/ストップするボタンを選択します。  
OFF、ET1～ET5、BT1のどれかを選択します。  
2) ダウンキーを押します。



- 5) 1) +キー/-キーを押して、ラップタイム計測用のボタンを選択します。  
OFF、ET1～ET5、BT1のどれかを選択します。  
2) ダウンキーを押します。

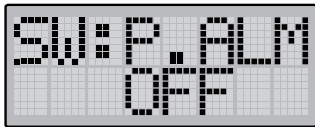


- 6 1) アラームをセットします。+キー/−キーを押して、ブザーを鳴らす時刻を選択します。OFF、1min ~ 99min の範囲で設定できます。レース時間を設定します。
- 2) ダウンキーを押します。



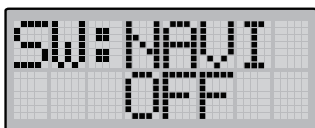
**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

- 7 1) アラームの予告を設定します。+キー/−キーを押して、アラームを鳴らす何秒前に予告する（ブザーを鳴らす）かを設定します。OFF、1sec ~ 30sec の範囲で設定できます。レース終了前の予鈴を設定します。
- 2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

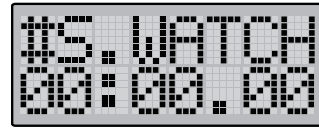
- 8 指定時間ごとのアラームを設定します。+キー/−キーを押して、何秒おきにアラームを鳴らすかを設定します。OFF、00min01sec ~ 99min59sec の範囲で設定できます。自分なりの周回基準タイムを設定します。



**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

- 9 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。

- 10 手順4で割り当てたボタンを押すと、計測が始まります。

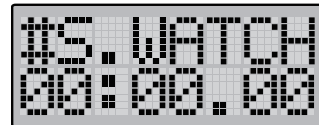


計測を停止するときはもう一度ボタン（または−（ストップ）キー）を押します。停止中に再度ボタン（または+（スタート）キー）を押すと、計測が再開されます。ボタン（または−（ストップ）キー）を長押しすると、タイムが00:00.00に戻ります。

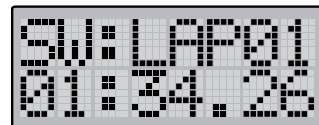
### ラップタイムの表示

ラップごとのタイムを計測して、走行終了後に確認できます。

- 1 +（スタート）キーまたは42ページの手順4で割り当てたボタンを押して計測を開始します。スロットルトリガーで計測を開始するように設定しているときは、スロットルトリガーを引きます。



- 2 42ページの手順5で割り当てたラップタイム計測用のボタンを押します。ラップタイムが記憶され、約3秒間表示されます。この間、タイムの計測は継続しています。

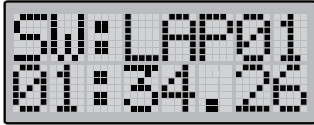


- 3 手順2を繰り返してラップごとのタイムを計測します。

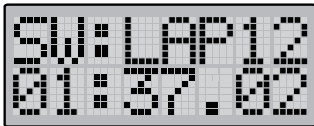
- 4 −（ストップ）キーまたは42ページの手順4で割り当てたボタンを押して計測を停止します。

5 エンターキーを押します。

6 ダウンキーを押します。  
1 周目のラップタイムが表示されます。



7 +キー/ーキーを押して、表示するラップタイムを切り替えます。  
ラップタイムは99ラップまで保存されます。  
99ラップを超すと、最初のラップタイムから順に上書きされます。



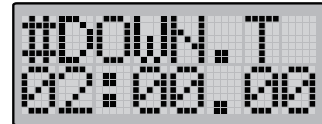
8 バック（ファンクション）キーを押します。

9 -（ストップ）キーまたは42ページの手順4で割り当てたボタンを長押しして、タイムをリセットします。

## ダウンタイマー（#DOWN.T ダウンタイマー）

指定した時間の経過後にアラームを鳴らします。  
エンジンカーの給油タイミングを計る場合などに便利です。

1) 1) ダウンキー/アップキーを押して「#DOWN.T」を表示します。



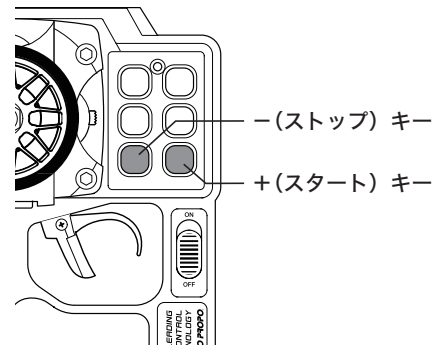
すぐにカウントダウンを始める場合

+（スタート）キーまたは手順2で割り当てたボタンを押して計測を開始します。

-（ストップ）キーまたは手順2で割り当てたボタンを押して計測を停止します。

停止中にもう一度、+（スタート）キーまたは手順2で割り当てたボタンを押すと、計測が再開されます。

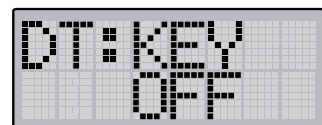
-（ストップ）キーまたは手順2で割り当てたボタンを長押しすると、手順3で設定したタイムに戻ります。



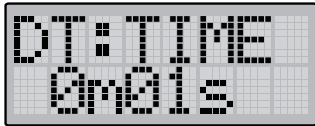
2) エンターキーを押します。

2) 1) +キー/ーキーを押して、キッチンタイマーをスタート/ストップするボタンを選択します。  
OFF、ET1～ET5、BT1のどれかを選択します。

2) ダウンキーを押します。

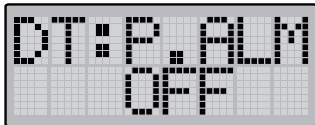


- 3) 1) +キー/−キーを押して、カウントダウンする時間を設定します。  
OFF、0min01sec ~ 99min59sec の範囲で設定できます。  
2) ダウンキーを押します。



**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

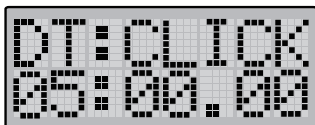
- 4) アラームの予告を設定します。+キー/−キーを押して、アラームを鳴らす何秒前に予告する(ブザーを鳴らす)かを設定します。  
OFF、1sec ~ 30sec の範囲で設定できます。



**メモ** +キー/−キーを同時に押すと、設定値がOFFになります。

- 5) バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

- 6) 手順2で設定したボタンを押すと、カウントダウンが始まります。



カウントダウンを停止するときはもう一度ボタン(または−(ストップ)キー)を押します。停止中に再度ボタン(または+(スタート)キー)を押すと、カウントダウンが再開されます。ボタン(または−(ストップ)キー)を長押しすると、タイムが手順3で設定した値に戻ります。

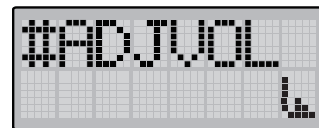
### 消耗したボリュームの更新 (#ADJVOL アジャストボリューム)

使用を続けていると、ステアリングやスロットルに使用しているボリュームが消耗し、出荷時の情報との差が大きくなります。このファンクションメニューでその差を改善できます。

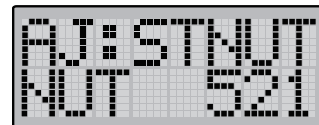
**メモ** 使用頻度や操作方法などによって、この操作が必要になるまでの期間は大きく異なります。

**注意** この操作を不完全に行ってしまうと、かえって動作に不具合が生じることがあります。操作方法がよく分からないときは、弊社サービス部まで修理をご依頼ください。

- 1) ダウンキー/アップキーを押して「#ADJVOL」を表示します。  
2) エンターキーを押します。  
メニューから抜けるときは、バック (ファンクション) キーを押します。



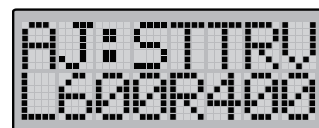
- 2) 1) ステアリングホイールを動かして画面に表示される実測値を確認し、ニュートラル位置でステアリングホイールから手を離します。  
2) エンターキーを押します。



画面の数値は例です。実際の表示とは異なります。

**注意** アップキーを押すときは、ステアリングホイールに手を触れないでください。

- 3) 1) ステアリングホイールを左右一杯まで軽く動かして、上限値を設定します。  
2) エンターキーを押します。

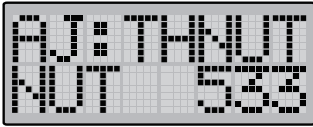


画面の数値は例です。実際の表示とは異なります。

**注意** アップキーを押すときは、ステアリングホイールに手を触れないでください。

**メモ** ステアリングホイールを左右に動かす際に無理な力を加えると、正しい位置が設定されないことがあります。

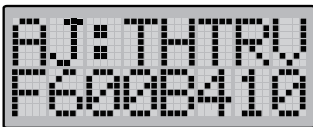
- 1) スロットルトリガーを動かして画面に表示される実測値を確認し、ニュートラル位置でスロットルトリガーから手を離します。
- 2) エンターキーを押します。



画面の数値は例です。実際の表示とは異なります。

**注意** アップキーを押すときは、スロットルトリガーに手を触れないでください。

- 5 スロットルトリガーを前後一杯まで軽く動かして、上限値を設定します。



画面の数値は例です。実際の表示とは異なります。

**メモ** スロットルトリガーを前後に動かす際に無理な力を加えると、正しい位置が設定されないことがあります。

- 6 エンターキーを押します。

- 7 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

**注意** バック（ファンクション）キーを押すときは、ステアリングホイールやスロットルトリガーに手を触れないでください。

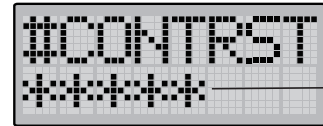
**メモ** この操作を行っても不具合が解消されないときは、弊社サービス部まで修理をご依頼ください。

## 液晶ディスプレイのコントラスト調整（#CONTRST コントラスト）

液晶ディスプレイはその特性上、周囲の温度によってコントラストが変化します。このファンクションメニューで最適な表示になるように調整してください。

- 1 ダウンキー／アップキーを押して「#CONTRST」を表示します。

- 2 +キー／-キーを押してコントラストを変更します。  
8段階で設定できます。\*が多いほど画面が濃くなります。



コントラストの値

**メモ** +キー／-キーを同時に押すと、コントラストは最大になります。

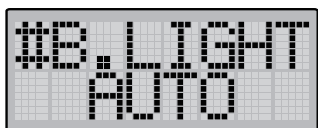
- 3 バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー／アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。  
設定内容が保存されます。

## 液晶ディスプレイのバックライトの点灯方法 (#B.LIGHT バックライト)

バックライトの点灯方法を設定します。

1 ダウンキー/アップキーを押して「#B.LIGHT」を表示します。

2 +キー/-キーを押して点灯方法を変更します。  
OFF: バックライト消灯  
AUTO: ボタン操作後の5秒間だけバックライト点灯  
ON: バックライト点灯



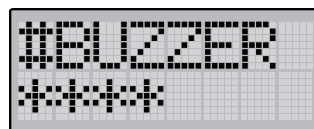
**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、AUTOになります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

## ブザー音の音程の調整 (#BUZZER ブザー)

1 ダウンキー/アップキーを押して「#BUZZER」を表示します。

2 +キー/-キーを押して音程を変更します。8段階で設定できます。\*が多いほど高音になります。



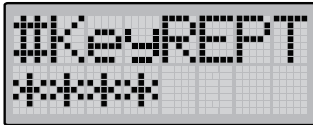
**メモ** +キー/-キーを同時に押すと、音程が6段階目になります。

3 バック (ファンクション) キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー/アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

## キー長押し時の連打速度 (#KeyREPT キーリピート)

キーを長押ししているときの連打速度を設定します。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#KeyREPT」を表示します。
- 2) +キー／-キーを押して連打速度を変更します。8段階で設定できます。\*が多いほど連打速度が遅くなります。



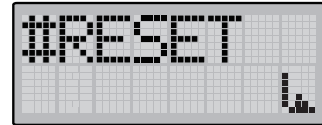
**メモ** +キー／-キーを同時に押すと、連打速度が1段階目になります。

- 3) バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻るか、ダウンキー／アップキーを押して他のファンクションメニューを選択します。設定内容が保存されます。

## 設定内容のリセット (#RESET リセット)

すべての設定内容を破棄し、初期状態に戻します。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#RESET」を表示します。
- 2) エンターキーを長押しします。



リセットが終了すると、「COMPLETE」が点滅表示されます。



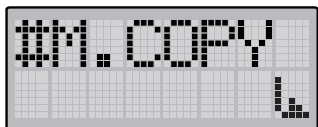
## モデルメモリのコピー (#M.COPY モデルコピー)

現在のモデルメモリの内容を、他のモデルメモリにコピーします。

同じ車体でコンディションなどに合わせてセッティングを細かく変えたいときに、モデルメモリをコピーしてから修正すると簡単です。

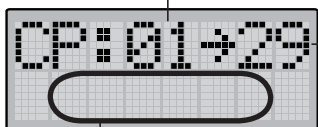
**注意** コピーすると、コピー先のモデルメモリに保存されている内容は上書きされます。上書きされても問題無いか確認してから次の操作を実行してください。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#M.COPY」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。



- 2) ダウンキー／アップキーを押して、コピー先のモデルメモリの番号を選択します。

選択しているコピー元のモデルメモリ番号



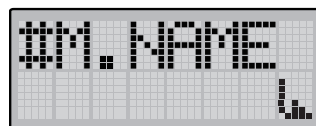
コピー元のモデル名    コピー先のモデルメモリ番号

- 3) コピーしてもよければ、エンターキーを押します。  
設定内容がコピーされます。  
コピーしないときは、バック（ファンクション）キーを押します。

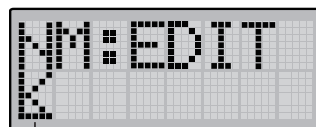
## モデルメモリに名前を付ける (#M.NAME モデルネーム)

モデルメモリを区別するために名前を付けます。  
新しいモデルメモリに名前を付けたり、既存のモデル名を編集できます。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#M.NAME」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。

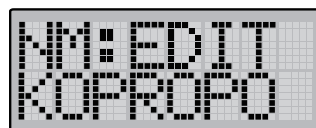


- 2) ダウンキー／アップキーを押して、カーソルの位置を選択します。
- 2) +キー／-キーを押して文字を選択します。



カーソル  
(この位置に文字が入力できます。)

- 3) 手順2を繰り返してモデル名を入力します。



- 4) 入力が終わったら、バック（ファンクション）キーを押して通常画面に戻ります。  
設定内容が保存されます。

**メモ** 入力可能な文字

! " # \$ % & ' ( ) \* + , - . /

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

! " # \$ % & ' ( ) \* + , - . /

A B C D E F G H I J K L M  
N O P Q R S T U V W X Y Z

[ # ] ^ \_ ` a b c

a b c d e f g h i j k l m  
n o p q r s t u v w x y z

( ) \* + , - . /

ア イ ウ エ オ カ キ ク コ ケ コロ クロダ ス テイ  
タ チ リ テ ト ナ ニ ヌ ネ ノ トラ フ ハ ヲ  
ワ エ オ カ キ ク コ ケ コロ クロダ ス テイ

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9  
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

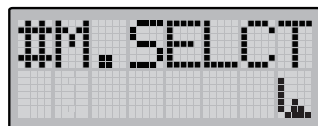
**モデルメモリの切り替え (#M.SELCT モデルセレクト)**

使用するモデルメモリを切り替えます。

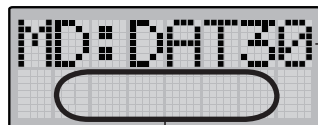
**メモ** 本機は 30 台分のモデルメモリを保存できます。車を何台も持っているときに、車ごとにモデルメモリを保存しておくとう便利です。また、同じ車でもコースごとのセッティングをモデルメモリに保存しておくこともできます。

**注意** 走行中にモデルメモリを切り替えしないでください。車と設定が合っていないと、暴走する恐れがあります。

- 1) ダウンキー／アップキーを押して「#M.SELCT」を表示します。
- 2) エンターキーを押します。



- 2) ダウンキー／アップキーを押してモデルメモリを切り替えます。



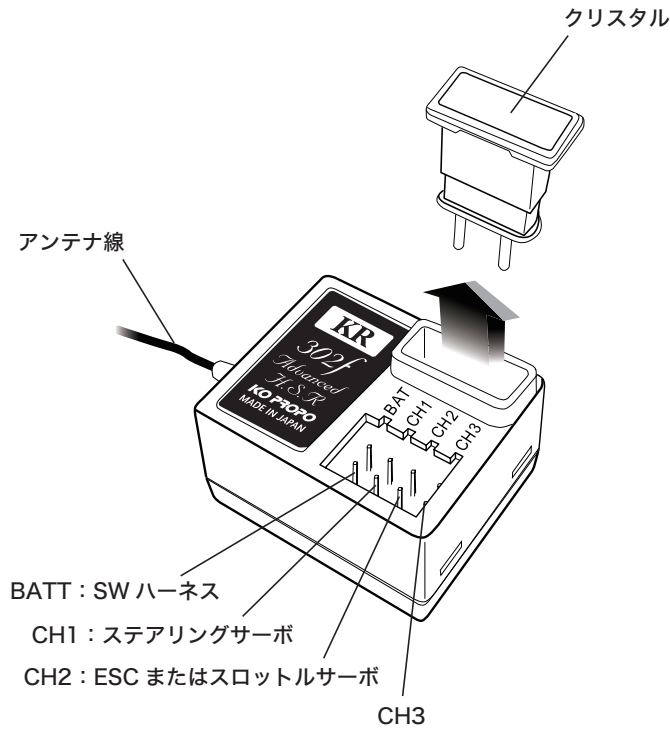
モデル名

モデル番号

- 3) 切り替えてもよければ、エンターキーを押します。モデルメモリが切り替わります。切り替えなときは、バック（ファンクション）キーを押します。

# 第3章 受信機の搭載

## 受信機各部の名称

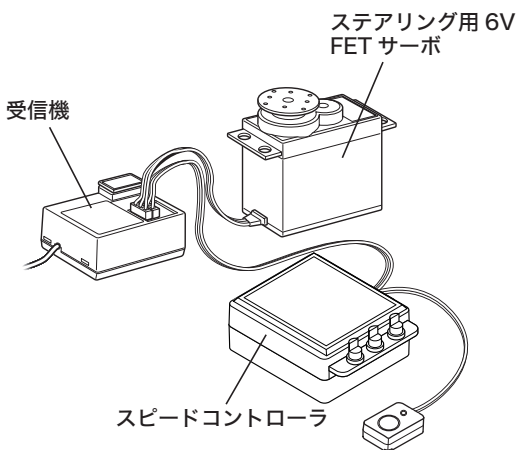


受信機の搭載

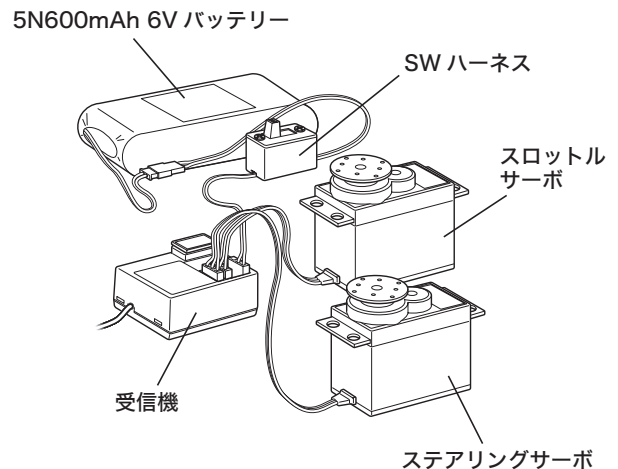
## 受信機の接続例

受信機によって各チャンネルとバッテリーチャンネルの配置が異なります。受信機の表示をよく確認してコネクタを接続してください。

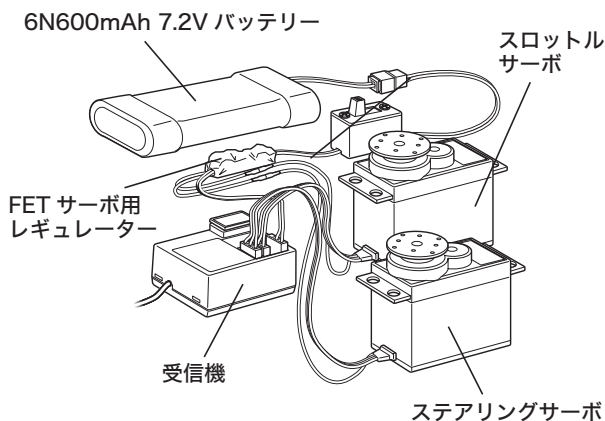
### ● 電動カー (ESC + 6V 用 FET サーボ)



### ● エンジンカー 1 (6V 用サーボ)



## ● エンジンカー 2 (7.2V 用 FET サーボ)



### 周波数と周波数帯

周波数帯の中で周波数を変更するには、送信機と受信機のクリスタルを交換します。  
 周波数帯を変更するには、送信機と受信機の RF モジュール（高周波モジュール）を交換します。  
 (6 ページ「周波数帯と周波数（バンド）の変更」参照)

日本国内では、地上用（車用）のラジオコントロール模型用として、27MHz と 40MHz の電波を利用できます。使用可能な周波数帯と周波数は次の表のとおりです。

27MHz (にじゅうななメガヘルツ)				40MHz (よんじゅうメガヘルツ)	
周波数	読みかた	周波数	読みかた	周波数	読みかた
26.975MHz	01 (ゼロイチ)	27.125MHz	07 (ゼロナナ)	40.610MHz	61 (ロクイチ)
36.995MHz	02 (ゼロニイ)	27.145MHz	08 (ゼロハチ)	40.630MHz	63 (ロクサン)
27.025MHz	03 (ゼロサン)	27.175MHz	09 (ゼロキュウ)	40.650MHz	65 (トクゴウ)
27.045MHz	04 (ゼロヨン)	27.195MHz	10 (イチゼロ)	40.670MHz	67 (ロクナナ)
27.075MHz	05 (ゼロゴウ)	27.225MHz	11 (イチイチ)	40.690MHz	69 (ロクキュウ)
37.095MHz	06 (ゼロロク)	27.255MHz	12 (イチニイ)	40.710MHz	71 (ナナイチ)
				40.730MHz	73 (ナナサン)
				40.750MHz	75 (ナナゴウ)

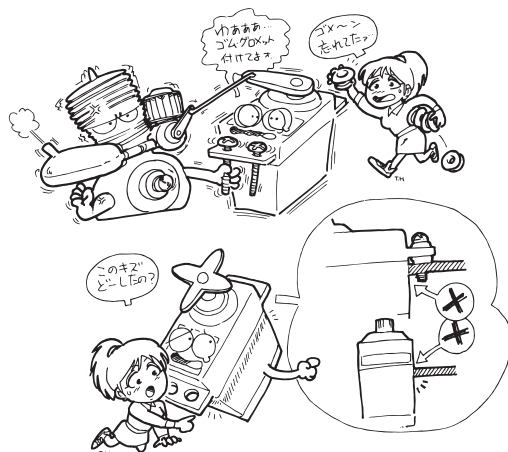
## 搭載時の注意

### 警告！

- ⚠ 使用するクリスタルは、必ず弊社製 FM 純正クリスタルセット（送信機、受信機）を使用する。指定以外のクリスタルを使用すると、周波数のズレや出力の減少を招き、暴走することがあります。
- ⚠ 受信機、サーボ、スイッチなどのコネクタは、奥までしっかり挿してください。走行中の振動でコネクタが抜けると、暴走することがあります。
- ⊘ 受信機アンテナは切ったり、束ねたりしない。受信感度が下がり、暴走することがあります。
- ⊘ 送信機、受信機の電池の極性を間違えない。機器が破損します。
- ⊘ 受信機は、エンジンの排気がかかる場所や高温になる場所に搭載しない。受信機が故障し、暴走の原因になります。

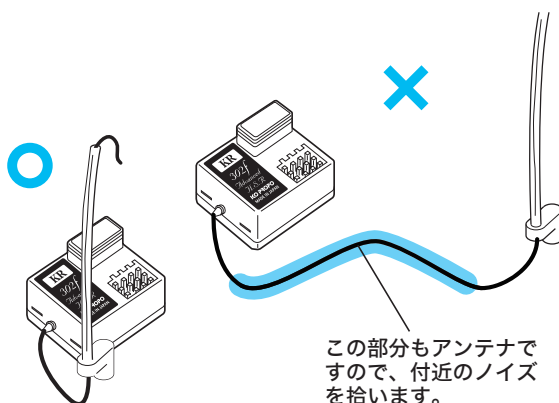
### 注意！

- ⚠ 送・受信機、サーボ、ESC など組み合わせる周辺機器は、必ず弊社純正品を使用する。弊社純正品以外との組み合わせにより発生した損害などにつきましては弊社では責任を負いかねますので、ご了承ください。
- ⚠ サーボの取り付けにはゴムグロメットを使用する。また、サーボが直接シャーシに触れないようにする。サーボに振動が直接伝わると、故障の原因となります。またその結果、暴走することがあります。



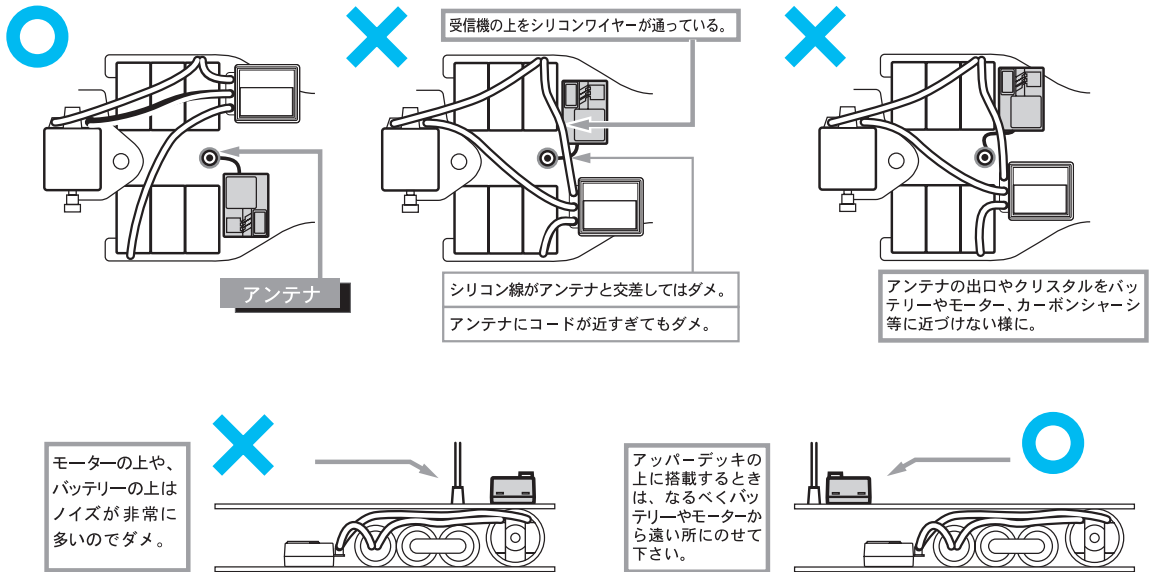
- アンテナホルダーはできるだけ受信機の近くに設置してください。

**メモ** カーボンや金属など電気を通すパーツはノイズも通します。シャーシやメカプレートにはアンテナ線を密着させないでください。



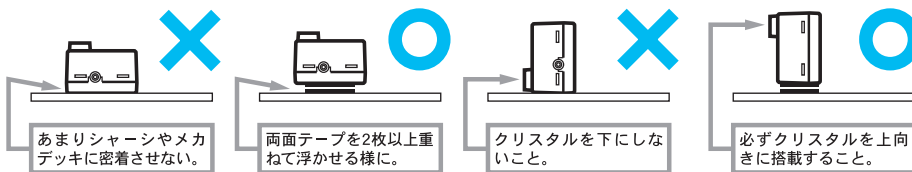
●「大電流の流れるところ＝ノイズの発生源」です。

モーター、ESC、ニッカド電池、シリコンコードなどからは、できるだけ受信機を離して搭載してください。特にシリコンコードは、絶対に受信機の横や水晶の近くを通さないでください。FET サーボの青線（7.2V）や ESC のスイッチ線も受信機に近づけないでください。



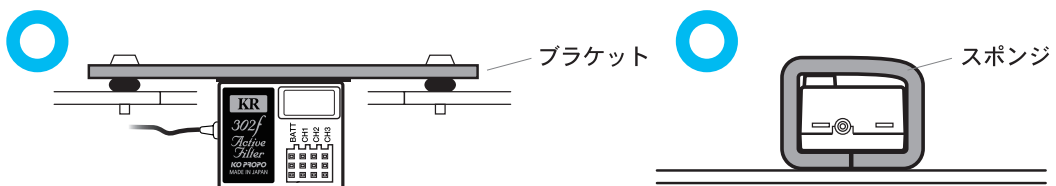
●受信機は、シャーシやメカプレートに両面テープを2枚以上貼って、シャーシやメカプレートに受信機本体が触れないようにして搭載してください。

また、必ず水晶が上向きになるようにしてください。



●エンジンカーでは、エンジンの振動が受信機にダメージを与えるので、シャーシやメカプレートに両面テープで直接、受信機を貼り付けしないでください。

必ずキット付属のブラケット（受信機ホルダー）を使用するか、厚手のスポンジで受信機を包んでください。



## 仕様

### ● 送信機 KT-407H

操作方式	ホイル+トリガー方式
チャンネル数	4チャンネル
送信周波数帯	高周波モジュール交換にて全周波数帯可
ニュートラルパルス	1.5mSec
電源	単三×8本、または8セルバッテリーパック
消費電流	30mA以下(但し、高周波部含まず)

### ● 高周波モジュール RF-104FR (KT-407H専用)

変調方式	FM-PPM
送信周波数	クリスタル交換にて周波数帯内の全バンド

### ● 受信機 KR-302FS

受信方式	FM-PPM
チャンネル数	3チャンネル
受信周波数	クリスタル交換にて周波数帯内の全バンド
中間周波数	455KHz
動作電圧	DC 3.5 ~ 6.5V
寸法	29.3 × 24.4 × 16.4mm
重量	12.0g (クリスタル除く)

## 用語説明

- アナログサーボ** サーボの制御 IC にアナログ方式のものを使用したサーボの機種名の総称。
- アラーム** 送信機のブザーで鳴らす合図。警告などの意味に使用される場合もある。
- アンプ** → ESC
- ESC (イーエスシー)** エレクトリックスピードコントローラーの略。電動カーで使用するモーターのスピードコントローラーのこと。アンプ。
- EEPROM (イーイーピーロム)** メモリの種類。書き込んだ内容は、電源が切れても消えることは無い。本体内のメモリのほかにデータパックにも使用されている。
- インターネット** パソコン複数接続した通信ネットワークをさらに、大規模に接続したネットワーク。世界中にホームページによる情報発信や、電子メールによるコミュニケーションが行える。
- ウェブサイト** →ホームページ
- AM (エーエム)** 送信機から送る電波の信号形式。別の方式として FM がある。AM は振幅変調方式の英語での略称である。使用する際には、送受信機の信号形式を合わせる必要がある。
- LCD (エルシーディー)** 液晶表示器を意味する略称。文字などを表示するのに使用される。
- LED (エルイーディー)** 発光ダイオード。電気によって発光する半導体素子の一種。
- AC 充電器** 家庭用の 100V コンセントに接続する充電器。充電には数時間以上かかる場合が多い。
- FM (エフエム)** 送信機から送る電波の信号形式。FM は周波数変調方式の英語での略称。
- FET (エフイーティー)** 電界効果トランジスタ。通常のトランジスタに比べ、ロス抵抗が小さく自身の消費電流も小さい。
- FET サーボ** モーター駆動素子に、従来のトランジスターの代わりに FET を使用したハイクラスサーボ。
- ET (レバー)** エレクトリックトリムの略。また、同様にボタンを BT と略している。
- カーソル** ディスプレイ上で、現在の操作することができる文字位置を示すマーク。
- 急速充電器** ニッカド電池やニッケル水素電池を短時間で充電する充電器。
- キャブレター** エンジンの燃料混合器、回転数を制御する。
- クリスタル** 送受信機の周波数を決める部品。水晶から作られる。
- クラッチ** エンジンの出力軸と変速器との間にある断続装置。
- 減角スパーサー** ステアリングホイールの切り角を減らすスパーサー。最大切れ角までの操作量を少なくできる。
- 高周波 ESC (アンプ)** モーターを駆動する周波数が高い方式の ESC。ほとんどがこの方式であるが、過去のものなどには高周波方式でないものも存在する。
- 高周波 (RF) モジュール** 電波を作り、発射する回路装置。脱着できる。使用する周波数帯 (27MHz / 40MHz) を変える場合に交換する必要がある。
- コネクタ** 脱着式の電気接点ユニット。



<b>ゴムグロメット</b>	サーボを振動から守るゴム部品、サーボケースの耳に取り付ける。
<b>サーボ</b>	送信機の操縦信号を回転機械運動に変換する装置。サーボモーター。
<b>サイクル</b>	ある動作の繰り返しの間隔、周期のこと。
<b>CPU (シーピーユー)</b>	デジタル演算処理により、さまざまな用途に使われるコンピュータの心臓部のIC。マイコン。MPUと呼ぶこともある。
<b>周波数帯</b>	各周波数が集合しているところ。27MHz帯(メガヘルツ)、40MHz帯等と呼ぶ。
<b>受信機 (RX)</b>	送信機の電波を受けてサーボやESCに制御信号を送り出す装置。
<b>スピードコントローラー</b>	→ESC
<b>スイング</b>	決められたある2点間を往復運動すること。
<b>スプライン</b>	出力軸の溝とホーンの穴にオフセットが付いているため、回して行くと細かい位置合わせができる。
<b>センタートリム</b>	トリムを操作しても舵角の両端は動かずに、ニュートラルのみが動く方式のトリム。
<b>セーバーホーン</b>	ホーンの内部に緩衝装置を組み込んだ物。キットに付属している。
<b>送信機 (TX)</b>	電波を発射して、受信機に接続されたサーボやESCを制御して模型を動作させるための装置。→プロポ
<b>舵角 (トラベル)</b>	サーボホーンが回転する角度、動作量。
<b>チャンネル (CH)</b>	送信機で個別に操作できるサーボ等の数。またはその個別の信号の番号。
<b>デジタルサーボ</b>	制御ICにデジタル方式を使用したサーボの総称。
<b>ディレイ</b>	動作が遅れること、または遅らせること。遅延。
<b>DC充電器</b>	12Vバッテリーや12V安定化電源など、電源に直流を使用する充電器。
<b>デューティ</b>	2つの動作の比率。
<b>トラベル</b>	舵角、動作量のこと。
<b>トリガー</b>	送信機の操作機構。ピストルの引き金の様な形状で、引いたり押したりすることで、スロットルを制御する。
<b>トリム</b>	各チャンネル信号のニュートラル位置を調整する装置。
<b>ニッカド (Ni-cd)</b>	乾電池と異なり、繰り返し充電して使用可能な電池。充電可能な電池としては他にも、ニッケル水素やリチウムイオンなどがある。
<b>ニュートラル</b>	送信機のスティックから手を離れた状態。またはそのときのサーボホーン的位置。
<b>27MHz</b>	ラジコンで使用できる周波数帯の一つ。地上、水上模型用で12バンドある。
<b>ノイズ</b>	電氣的な雑音。一種の電波のため、受信機に飛び込んで誤動作させる。
<b>バックライト</b>	LCD(液晶ディスプレイ)は自身が発光しないために、暗いところでは視認性がよくない。これを解決するために、液晶の裏側に取り付けられているランプ(発光源)のこと。
<b>バンド</b>	周波数のこと。クリスタルで決まる。同一周波数帯内でクリスタル交換により変更可能。
<b>バンドプレート</b>	自分の周波数を他の人に示すためのプレート。

<b>不感帯</b>	ホイールやトリガーを操作してもサーボが反応しない領域。
<b>VR (ブイアール)</b>	ボリューム (可変抵抗) の略号、ステアリングやスロットルの位置を検出する電子部品。
<b>プッシュロッド</b>	リンケージに使われる棒状の物。
<b>プリセット</b>	あらかじめ位置を設定しておくこと。
<b>PC インターフェース</b>	送信機の設定をパソコン (PC) で行うために、信号を変換して接続するためのアダプター。
<b>プロポ</b>	ラジオコントロール模型に使用する送信機。または、送受信機を総称する場合もある。プロポーショナル方式の略語。
<b>放電器</b>	ニッカドなどの充電式電池の残量を強制的に放出させる回路装置。
<b>ホイール</b>	左右に回してステアリングを操作する送信機の機構。
<b>ポンピング動作</b>	ブレーキを断続的に踏んだり放したりすること。
<b>ホームページ</b>	インターネット上にある情報を記載した場所のこと。ウェブブラウザと呼ばれるパソコン上のソフトウェアで見ることができる。
<b>メカプレート</b>	車のシャーシの上に付いている、受信機サーボなどを取り付ける板。
<b>メガヘルツ (MHz)</b>	周波数の単位。基本単位はヘルツ (Hz)。 1000Hz = 1KHz (キロヘルツ) 1000KHz = 1MHz
<b>メモリ</b>	パソコンなどでは、一時的に情報を蓄える保存場所という意味に使用される。この場合のメモリの情報は、電源を切るとなくなってしまうが、送信機などに使用されるメモリは、不揮発メモリと呼ばれ、電源を切っても情報を保持している。(→ EEPROM)
<b>40MHz</b>	ラジコンで使用出来る周波数帯の一つ。地上模型用 8 バンド。上空模型用 5 バンドがある。
<b>リンケージ</b>	サーボと模型の各機構を接続する連結機構。
<b>リセット</b>	設定数値などの設定内容を、初期状態に戻すこと。
<b>レギュレーター</b>	入力電圧を必要な電圧に安定化する回路。
<b>レスポンス</b>	送信機を操作してから、受信機側の機器が反応するまでの時間。
<b>六角レンチ</b>	断面が六角形になっているレンチ。
<b>ワイズ</b>	ABS やスロットルアクセルで動作する幅のこと。

# 索引

## 記号

#ADJVOL .....	45
#B.LIGHT .....	47
#BUZZER .....	47
#CHSELCT .....	9, 40
#CONTRST .....	46
#DOWN.T .....	44
#KeyREPT .....	48
#M.COPY .....	49
#M.NAME .....	49
#M.SELCT .....	50
#RESET .....	48
#RESPONS .....	9, 10, 40
#S.WATCH .....	42
#SETUP .....	41

## 数字

27MHz .....	52
27MHz 帯 .....	6
3ch / 4ch の設定 .....	38
3chMONIT .....	38
3chSETUP .....	38
3ch の設定 .....	38
3ch モニター .....	38
40MHz .....	52
40MHz 帯 .....	6
4chMONIT .....	38
4chSETUP .....	38
4ch の設定 .....	38
4ch モニター .....	38

## アルファベット

### A

ABS .....	33
ABS:POS .....	35
ABS:WID .....	35
ABS の設定 .....	33
AC100V 用充電器 .....	6
ACC:POSH .....	36
ACC:POSL .....	36
ACC:WID .....	36

### B

BT1 ボタン .....	1, 37, 41
---------------	-----------

### D

D.S.C. ....	12
DC12V 用急速充電器 .....	6

### E

ESC. ....	11, 51, 53, 54
ET1 レバー .....	1, 15, 41
ET2 レバー .....	1, 23, 41
ET3 ダイヤル .....	1, 16, 41
ET4 レバー .....	1, 24, 41
ET5 レバー .....	1, 41

### F

FET サーボ .....	54
---------------	----

### R

RF モジュール .....	1, 52
----------------	-------

### S

S:BALANC .....	16
S:CURVE .....	19
S:MONIT .....	15
S:PUNCH .....	19
S:QuickR .....	10, 20
S:REVERS .....	18
S:SPEED .....	20
S:SUBTRM .....	13, 17
S:TRAVEL .....	16
S:TRM .....	13, 15
S:TRMRAT .....	18

## T

T:ABS	33
T:ACCEL	35
T:AUTO.S	37
T:BRAKE	24
T:CURVE	27
T:HiPOT	24
T:IDLEUP	32
T:MONIT	23
T:PUNCH	26
T:QuickR	10, 28
T:REVERS	26
T:SPEED	29
T:SUBTRM	13, 25
T:TRM	13, 23
T:TRMRAT	25

## かな

### あ

アクセレーション	35
アクティブ・ブレーキコントロール・システム	33
アジャストボリューム	45
アップキー (UP)	1
アドバンスドハイスピードレスポンス	9, 40
アナログサーボ	11
アラーム	43, 44
安全にご使用いただくために	iv
アンテナ	1
アンテナ線	51, 53
アンテナホルダー	53

### う

ウルトラハイスピードレスポンス	10
-----------------	----

### え

液晶ディスプレイ	1, 2
液晶ディスプレイのコントラスト調整	46
液晶ディスプレイのバックライトの点灯方法	47
エンターキー (ENTER)	1

### お

オートスタート	37
---------	----

### か

各位置での出力量の設定	38
カラーパッド	8

### き

キー操作	2
キー長押し時の連打速度	48
キーリピート	48
切り始めの反応のクイック化	19

### く

クリスタル	1, 6, 51, 52, 53, 54
-------	----------------------

### こ

高周波モジュール	1, 6, 52, 55
コントラスト	46

### さ

サーボ	13, 53
サブトリム	13
左右の舵角の個別調整	16

<b>し</b>	
周回基準タイム	43
充電ジャック	1, 6
周波数	6, 52
周波数帯	6, 52
受信機	51, 54, 55
受信機アンテナ	53
受信機ホルダー	54
出力フレームの設定	40
仕様	55
消耗したボリュームの更新	45
初期状態	48
初期反応のクイック化	26
シリコンコード	54

<b>す</b>	
スイング幅	36
スーパーハイスピードレスポンス	9, 40
スタート時のスロットル量を一定にする	37
ステア量の表示	15
ステアリングカーブ	19
ステアリング関連の設定	15
ステアリング切れ角	14
ステアリングクイックリアクション	10, 20
ステアリングサブトリム	17
ステアリングスピード	20
ステアリングトラベル	16
ステアリングトリム	15
ステアリングトリムレート	18
ステアリングバランス	16
ステアリングパンチ	19
ステアリングホイール	1, 14
ステアリングモニター	15
ステアリングリバース	18
ステアリングレスポンスの向上	20
ストップウォッチ	42
スピードコントローラ	51
スロットル A.B.S インジケーター	1
スロットルアイドルアップ	32
スロットルアクセレーション	35
スロットルカーブ	27
スロットル関連の設定	23
スロットルクイックリアクション	10, 28
スロットルサーボ	51
スロットルサブトリム	25
スロットルスピード	29
スロットルスピードインジケーター	1
スロットルトリガー	1
スロットルトリガー操作量とサーボ動作角の調整	27
スロットルトリガー操作量の表示	23

スロットルトリガーの位置	36
スロットルトリム	23
スロットルトリムレート	25
スロットルのあおり	35
スロットルの反応速度の調整	29
スロットルハイポイント	24
スロットルパンチ	26
スロットルモニター	23
スロットルリバース	26
スロットルレスポンスの向上	28

<b>せ</b>	
設定内容のリセット	48
セットアップ	41
前進側の動作量の設定	24
センタートリム	13

<b>そ</b>	
その他の設定	40

<b>た</b>	
ダイレクトサーボコントロール	12
ダウンキー (DOWN)	1
ダウンタイマー	44
舵角とサーボ動作角の調整	19
舵角に応じたサーボスピードの設定	20

<b>ち</b>	
チャンネルセレクト	40

<b>て</b>	
デジタルサーボ	11
電源スイッチ (POWER SW)	1
電池カバー	5
電池ボックス	5

<b>と</b>	
動作角の端とニュートラル位置の調整	17, 25
動作方向の切り替え	18, 26
動作モード	9
動作量の調整	16
動作量の表示	38
ドライバーホルダー	1
トリム	13
トリム 1 ステップあたりの動作量の調整	25
トリム 1 ステップの動作量の調整	18, 25

## に

ニッカド電池	54
ニュートラル位置	13
ニュートラル位置の調整	15, 23
入力可能な文字	50
任意の位置にスロットルサーボを動かす	32

## の

ノーマルレスポンス	9, 40
-----------	-------

## は

バック (ファンクション) キー (BACK/FUNC)	1
バックライト	47
バッテリーチャンネル	51
バッテリー電圧	2
バッテリーパック	5
パワーインジケータ (POWER LED)	1
バンド	6

## ふ

ファンクションメニュー	7
ファンクションメニュー一覧	2
ファンクションメニュー設定	15
フェイルセーフアダプター	11
ブザー	47
ブザー音の音程の調整	47
ブラケット	54
プラス (スタート) キー	1
ブレーキ	24
ブレーキ側の動作量の設定	24

## ほ

ボタンへの機能の割り当て	41
ボリューム	45
ボンピング開始位置	35
ボンピング幅	35

## ま

マイナス (ストップ) キー	1
----------------	---

## も

モーター	54
モードの切り替え	10
モデルコピー	49
モデルセレクト	50
モデルネーム	49
モデルメモリ	49, 50
モデルメモリに名前を付ける	49
モデルメモリの切り替え	50
モデルメモリのコピー	49

## よ

予鈴	43
----	----

## ら

ラップタイム	42
--------	----

## り

リセット	48
------	----

## れ

レスポンス	40
レスポンス機能設定	10
レスポンスモード	9
レスポンスモード対応表	11

## 修理を依頼されるときは

本製品をご愛用いただいた結果、もしくは突発的な事故や故障によって修理をご依頼いただく際は、次の事項を紙に書いていただき、修理品と合わせてお送りください。

- ① 詳しいトラブルの状況
- ② 使用している送信機、受信機、サーボ、アンプの型番
- ③ 車体名およびモーター名（電動カーの場合）、搭載状況
- ④ お送りいただく修理品の種類と個数
- ⑤ 住所、郵便番号、氏名、電話番号、在宅時間

弊社の製造上の責任による故障の場合、保証書の規定に従い無償にて修理いたします。

**！注意！** 修理の際、お客様が設定された送信機内のデータを消去することがあります。あらかじめご了承ください。

### 送付先

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 4-17-7

近藤科学株式会社 サービス部

TEL 03-3807-7648

受付時間：月曜～金曜（祝祭日を除く）

9:00～12:00 / 13:00～17:00





キリトリ線

### 保証規定

この保証書により本製品を次の通り保証します。(日本国内のみ)

- 1 正常な使用状態において製造上の責任による故障は、お買い上げ日より6ヶ月以内、無償修理いたします。  
但し、本製品以外の物につきましては御容赦下さい。
- 2 保証期間内でも次の場合は保証の対象になりません。  
(1)使用上の誤り、操作の過失、又は事故による故障。  
(2)弊社以外で修理、改造された場合。  
(3)本保証書をなくされた場合。  
(4)修理の際に本保証書を添付されなかった場合。  
(5)輸送中の事故が原因の故障。  
(6)保管上の不備による故障。(温度、湿度、薬品等)  
(7)販売店印、お買い上げ日の記入が無い場合。  
又は記載事項を訂正された場合。  
(8)消耗部品(クリスタル、モーター、コネクタ等)による故障。
- 3 お買い上げ店、又は当社に御持参、又は郵送される際の諸費用は、お客様に御負担願います。又、お買い上げ店と当社間の運賃につきましては御負担いただく場合があります。

キリトリ線

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 4-17-7

近藤科学株式会社 サービス部

TEL 03-3807-7648

キリトリ線

キリトリ線

キリトリ線

### KO PROPO®

## 保証書

KO PROPO Professional Controller

製品型名

**EX-UR**

シリアル No.

御愛用者住所

〒(      -      )

TEL

(      )

お名前

保証期間

お買い上げ日

年

月

日

6ヶ月間

有効期限

年

月

日

販売店・印

上記の製品を裏面の通り保証します。  
販売店印のないものは無効です。

**近藤科学株式会社**

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 4-17-7

TEL 03-3807-7751

キリトリ線

### EX-UR

### 販売店様控表

KO PROPO

KONDO KAGAKU Co.,Ltd.

お買い上げ日

年

月

日

ご販売店様へ

ご愛用者名

電話番号

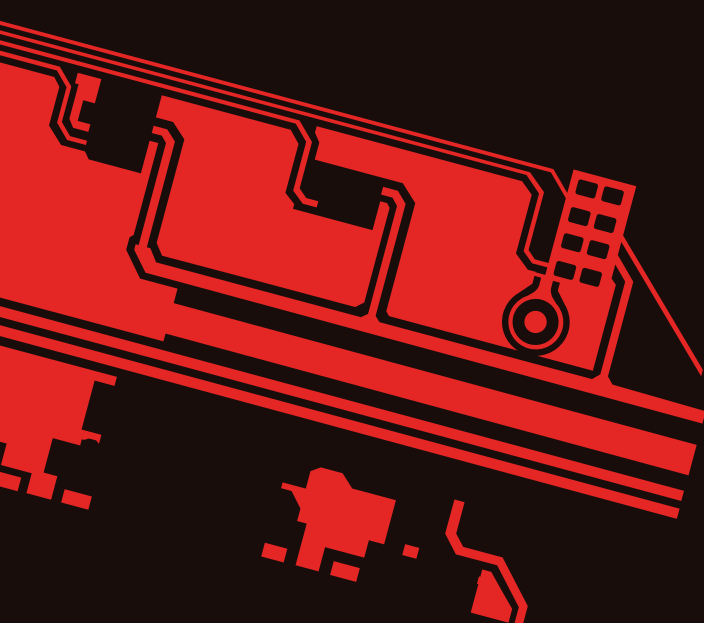
1. お客様控えとして切りはなして保管下さい。
2. 販売店の署名・捺印を必ずして下さい。
3. ご販売の時必ずお買い上げ日と有効期限を記入して下さい。
4. 保証書裏面をよくご指導下さい。

キリトリ線



# KO PROPO

KONDO KAGAKU CO., LTD



**KO PROPO**

Ultra High Speed Response

**EX-IR**